

1999年度  
講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画

東京大学

# 結 核 性 肺 病

東京大学出版会

## 「論述作文」クラス一覧

クラス	担当者	頁	クラス	担当者	頁	クラス	担当者	頁
01	青田 寿美	92	06	佐藤 慶子	94	11	藤原 健	96
02	青田 寿美	92	07	杉岡 信行	94	12	三浦 俊介	97
03	巖 圭介	92	08	並川 宏彦	95	13	三宅 正彦	97
04	片倉 穰	93	09	深澤 徹	95	14	山川 偉也	98
05	倉本 香	93	10	藤井 肇	96	15	佐賀 朝	98

### 〔注意〕

1. 実習的性格をもつ授業のため、1クラスの受講生は30名以内に制限する。従って応募者が定員を超えた場合、クラスへ参加できないことがある。
2. どのクラスも出席を重視する。一定の成果をあげるために、持続的な訓練が欠かせないからである。
3. 授業を円滑に運営し、よりよい成果をあげるために、「クラス一覧表」のようなクラス分けを行う。
4. 学則上、この科目は、共通自由科目（共通系）に位置づけられている。
5. 募集は、次の日程で実施する。

#### 〈申込受付〉学務課窓口

99E・SS・SW・B・L生…4月7日（水）9：10～15：00（11：30～12：30は昼休み）

96～98E・S・SS・SW・B・L生…3月31日（水）～4月1日（木）9：20～15：00（11：30～12：30は昼休み）※4月1日からは、9：10～15：00

#### 〈クラス発表〉4月10日（土）アンデレ館下掲示板

### 6. 申込方法

- ・「論述作文予備登録票」に必要事項を記入して提出すること。
- ・希望するクラスを3つ以内記入のこと。ただし、同一クラスを記入しないこと。
- ・時間割コードとクラス名が一致しない場合は、時間割コードにより処理するので注意すること。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論 述 作 文	0 1	通 期	2 単 位	青 田 寿 美
	0 2	通 期	2 単 位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>〈書く〉という表現行為の背後には、特定の（或いは不特定の）読者が存在する——自明のことながら、それを意識するか否か、この違いは大きい。なぜなら、読者という〈他者〉の存在を意識したときに、自らの文章がいかにか読まれるかという問題に行き当たらざるを得ないからである。ここにおいてこそ、「表現すべき自己内面を、いかに〈明快・明確・簡潔〉な文章で綴り、読み手へと伝達するか。」との自問が始まる。</p> <p>本講義では、対象の有する問題点へ鋭く切り込んでゆく思考力を養うと同時に、それを論理的に組み立て叙述する力の養成を目指す。そのためには、何よりもまず自らの内なる問題意識を明らかにせねばならず、さらには、自分の文章を多角的に見つめ直し検討すること、繰り返し書き直すことが必要となる。受講者各人には、様々な課題に対して根気よく取り組む姿勢を（時には執拗なまでの意欲を）希望する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>&lt;前期&gt; 小論文作成のためのアウトライン・文段構成の基礎について概説。 毎時、原稿用紙2～3枚程度の文章を執筆する。 （6月の2週分を計算機センターでのワープロ実習にあて、以降は、常時センターを利用。）</p> <p>&lt;後期&gt; 修了論文の作成を中心に、原稿用紙10～20枚程度の、質量共に充実した文章を執筆する。 （修了論文に関しては、夏期休暇中に、資料収集とブックレポートを課す。）</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>各時間ごとの課題提出を重視し、修了論文と併せて総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>保坂弘司著『レポート・小論文・卒論の書き方』（講談社学術文庫）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>澤田昭夫著『論文のレトリック』（講談社学術文庫）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論 述 作 文	0 3	通 期	2 単 位	巖 圭 介
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「的確な日本語で自分の考えを人に伝える」、これは学校のレポートに限らず、日常にも社会に出てからも、あらゆる場面で必要な能力である。事実に基づいて論理を展開し、自分の主張を相手に伝え納得させることのできる文章を書くことが、この講義の最終目標である。とくにこの授業では、文学や手紙のように心情的要素を含むものではなく、事実や状況に基づいた自分の意見をストレートに簡潔明瞭に述べる文章の書き方を修得してもらいたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>ときどき短い講義を挟みながら、原稿用紙2枚程度のレポートをいろいろなテーマに沿って毎回授業時間中にまとめてもらう。できた作品をクラス内で交換し、添削を加えながらいろいろな問題点を理解してもらう。前期中に計算機センターでワープロと電子メールの使い方を学び、作品の提出に利用する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況と提出作品数で評価する。欠席5回で除籍する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>木下是雄「レポートの組み立て方」ちくま文庫 本多勝一「日本語の作文技術」朝日文庫</p>			
<p>[教科書]</p> <p>とくになし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	04	通 期	2 単位	片 倉 穰
<b>[講義概要・学習目標]</b>  「ちゃんとした日本語を書こうと思ったら、まず、勉強に本多勝一氏の『日本語の作文技術』を読め、これが私の持論である。」(多田道太郎)。私たちは、まずこの本多氏の書を読んで、わかりやすい文章を書く秘訣を学び、つぎに、内容のある文章(論述作文)の書き方を身につけたいと思う。このため、ほとんど毎時間、ある課題で書くことが要求されるが、実践活動とおして書く喜びを実感していただきたい。 本年度は、夏休みに書評を一篇、学年末に小論文一篇を課する。	<b>[講義計画]</b>  (1) はじめに —— この授業の目標と方針 (2) 自己紹介文 (3) 作文の技術 —— 本多勝一『日本語の作文技術』を読む(分担発表) (4) 論文の書き方 (5) 書評の書き方 (6) 人生論 —— 「忘れ得ぬ人びと」「私の生きがい」 <夏休みの課題>書評(とりあげる作品は自由) (7) 小論文作成の準備状況(各自発表) (8) 大学・教育論 —— 「大学の授業」「学歴の功罪」 (9) 日本文化論 —— 「日本人について」「国民意識」 (10) 政治論 —— 「日本の政党政治」「日本人の政治意識」 (11) 国際問題 —— 「現代の民族問題」その他 <学年末の課題>小論文作成(自由題) (12) おわりに —— この授業を終えるにあたって(各自発表)			
<b>[成績評価の方法]</b>  出席状況、毎回提出の作文、夏休み後の書評および学年末の小論文等により評価する。	<b>[参考文献]</b>  古群廷治『論文・レポートのまとめ方』〈ちくま新書〉、筑摩書房、1997年			
<b>[教科書]</b>  本多勝一『日本語の作文技術』〈朝日文庫〉、朝日新聞社、1982年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	05	通 期	2 単位	倉 本 香
<b>[講義概要・学習目標]</b>  他人に何かを伝達するための文章は、明解かつ論理的でなければなりません、それだけでは不十分です。そこには「伝えたい」内容が詰まっていなくてはなりません。文章を書くに際して、テクニックが重要なのはもちろんですが、「書きたい、伝えたい」内容を探し出すこともとても重要です。従ってこの授業では、文章の題材の提供は最小限にとどめ、書くテーマはなるべく皆さん自身に選んでもらうようにしたいと思います。そのため一人、一人と話し合い、何を書きたいか、どう書きたいかをじっくり探っていきたいと思います。授業では「一斉」に同じことをするのではなく、各人がそれぞれのペースで進めていくことができるように工夫したいと思います。また、完成した文章の相互評価を積極的にやりたいと思います。	<b>[講義計画]</b>  前期はまず、文章に慣れ親しむことを目標とします。身近な話題を題材にしてなるべく多くの文章を書いてもらいます。後期は文献検索、要約の仕方、文章の組立て方について重点的に指導し、論文作法について学んでもらいたいと考えています。しかしこれはあくまでもプランの一つであって、もちろん、個別の内容は受講生の皆さんと相談の上、決定していきたいと思います。			
<b>[成績評価の方法]</b>  完成した文章を全て評価の対象にします。	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	06	通 期	2 単位	佐 藤 慶 子
<b>【講義概要・学習目標】</b>  自分の思いや考えを相手に伝え、同時に相手をも理解しようとする訓練ができていないため、年々、学生同士、また教師と学生間の、意思の疎通が困難になってきているのを痛感している。 嫌でも一生、人間として生きてゆかねばならないのだから、人と付き合うのを止める訳にはゆかない。人の意見を知ること、自分の視野も広がり、生きる支えにもなる。書くことで、あらためて自身を見詰め直すことができる。 社会生活の基本である、コミュニケーションの訓練の場としたい。	<b>【講義計画】</b>  <前期> ①原稿用紙の使い方。 ②自分の思い、考えを、より正確に相手に伝えるための表現法。  <後期> ①敬語の使い方。 ②礼儀正しく、心のこもった、手紙の書き方、電話の掛け方。			
<b>【成績評価の方法】</b>  ①出席（最重視）                      ④提出物 ②前、後期末試験                      ⑤発表 ③夏、冬休暇中の課題                      ⑥授業中の態度	<b>【参考文献】</b>  適宜、紹介する。			
<b>【教科書】</b>  市販のテキストは使用せず、講義中の板書と解説に、配付したプリントを併せて、一生、役に立つノート作りを目指す。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	07	通 期	2 単位	杉 岡 信 行
<b>【講義概要・学習目標】</b>  授業では、研究レポートや小論文が作成できるようになることを目標とする。原稿用紙の使用法から始めて、レポート作成に必要な文章表現やさまざまな知識を年間を通して学ぶ。その中では、本学図書館での文献検索の実習も含まれている。コンピュータによる文献検索に慣れていただきたい。 また授業では、計算機センターのパソコンにより、ワープロ原稿の入力を行う。データや文書が保存されているフロッピーディスクは必ず携帯してください。センターでの授業は月1回行う予定。	<b>【講義計画】</b>  〈前期〉初めに計算機センターでワープロガイダンスを受ける。授業中には400字×2枚程度のレポートを書くようにする。夏期休暇中のレポートは、自由課題として400字×5枚程度を宿題とする。  〈後期〉いくつかのテーマを課題として、長いレポートが書けるようにする。また、夏期レポートを発表してもらおう。他者の発表を聴きとり、質問したり意見を述べたりできるようになる。そして、その発表内容を最終レポート（400字×10枚程度）に仕上げる。			
<b>【成績評価の方法】</b>  出席数、レポート作品数などから総合的に評価する。	<b>【参考文献】</b>  野矢茂樹著『論理トレーニング』産業図書			
<b>【教科書】</b>  木下是雄著『レポートの組み立て方』（筑摩書房/ちくま学芸文庫）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	08	通 期	2 単位	並 川 宏 彦
<p><b>[講義概要・学習目標]</b></p> <p>文章を深く読み、その構造や論理の展開を把握し、自分の考えを明確に表現する能力を養う。また、読者の立場から文章を分析し、効果的な表現方法を学ぶ。</p>	<p><b>[講義計画]</b></p> <p>1. 論述作文の意義と目的 2. 読者の立場から文章を分析する 3. 効果的な表現方法を学ぶ 4. 読者の立場から文章を分析する 5. 読者の立場から文章を分析する 6. 読者の立場から文章を分析する 7. 読者の立場から文章を分析する 8. 読者の立場から文章を分析する</p>			
<p><b>[成績評価の方法]</b></p> <p>提出された文章で評価する。</p>	<p><b>[参考文献]</b></p>			
<p><b>[教科書]</b></p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	09	通 期	2 単位	深 澤 徹
<p><b>[講義概要・学習目標]</b></p> <p>大学教育を受けるに当たっての最低限必要なリテラシー（識字）の学習を基本目標とする。ただ文章を書くだけでなく、レポート作成のための情報収集や、論理の運び方、章立ての方法なども学習する。さらには、口頭発表や討論などの仕方でも学習する。</p> <p>なお文章の作成は、最初のうちだけ原稿用紙を使用するが、それ以後はもっぱら計算機センター室のワープロソフトを使用することとなる。</p>	<p><b>[講義計画]</b></p> <p>前期はあまり枠をはめず、自由なテーマ、自由な形式で思う存分自己表現を楽しむ。後期は様々な制約を課し、その中で論理的な文章の作成に取り組む。</p>			
<p><b>[成績評価の方法]</b></p> <p>出席重視は言うまでもないが、どれだけ作業（文章を書いたり口頭発表をしたり）に積極的に取り組んだかで、総合的に判断する。</p>	<p><b>[参考文献]</b></p>			
<p><b>[教科書]</b></p> <p>江川純緒『レポート・小論文の書き方』（日経新聞社 1998）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	10	通 期	2 単位	藤 井 肇
<b>[講義概要・学習目標]</b> 映像の時代とか感性の時代とかいわれますが、言葉の大切さはいつの時代も変わりません。言葉によって考える。言葉によって表現する。私は長く新聞記者としてきましたので、その体験や知識をみなさんの学習に生かしてもらいたいと思っています。就職試験などにも役立てください。	<b>[講義計画]</b> 実作を中心に、できるだけ具体的、実践的に話を進めていきます。随時、テーマを出し、800字程度の小論文あるいはエッセーを提出してもらいます。提出作品はそのフビ添削して返します。			
<b>[成績評価の方法]</b> 提出作品の評価を中心に。	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b> 辰濃和男著『文章の書き方』 (岩波書店/岩波新書)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者		
論述作文	11	通 期	2 単位	藤 原 健		
<b>[講義概要・学習目標]</b> 言語の四技能と言われる「読む」「書く」「聞く」「話す」のうち、現代社会においては、読む機会や話す機会が多いのに、特に「書く」という機会はあまりないように思われる。ことばを使って表現するのに大切なことは、表現力を養い、それを伸ばすことである。そのためには、ことばをただ単に知識として知るだけでなく、正確に意味を理解し、正しい使いかたを身につけなければならない。 この講義・演習では、文章を書くことの基本から始め、レポートや論文を書くときの要領を考え、ことばや文章についての考察を行い、実際に何度も書いてみるという作業を通して、最終的にはまとまった論文が一人で書けるようになることを目標とし、適宜講義も行う。また、後期には自分の意見を人の前で述べる練習として、テーマを与えてディスカッションを行い、それを小論文の形にまとめるという練習も行う。また、授業内容に合わせて、図書館実習、ワープロ実習も行う予定である。出席を重視する。	<b>[講義計画]</b> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">           1. 文章表現の基礎            1) 用字法・句読法            2) 原稿用紙の使いかた            2. 文章表現の演習            1) テーマを決めて書く            2) レポートの書きかた            3) 小論文・論文の書きかた               (目的、構成)            3. 文章の構成            1) 内容・テーマ         </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">           2) 構成            3) 表記・表現            4) 推敲            5) 評価            4. ディスカッション               (文献の捜しかた)            6. ワープロ実習               (パソコン、ワープロの操作)         </td> </tr> </table>				1. 文章表現の基礎 1) 用字法・句読法 2) 原稿用紙の使いかた 2. 文章表現の演習 1) テーマを決めて書く 2) レポートの書きかた 3) 小論文・論文の書きかた (目的、構成) 3. 文章の構成 1) 内容・テーマ	2) 構成 3) 表記・表現 4) 推敲 5) 評価 4. ディスカッション (文献の捜しかた) 6. ワープロ実習 (パソコン、ワープロの操作)
1. 文章表現の基礎 1) 用字法・句読法 2) 原稿用紙の使いかた 2. 文章表現の演習 1) テーマを決めて書く 2) レポートの書きかた 3) 小論文・論文の書きかた (目的、構成) 3. 文章の構成 1) 内容・テーマ	2) 構成 3) 表記・表現 4) 推敲 5) 評価 4. ディスカッション (文献の捜しかた) 6. ワープロ実習 (パソコン、ワープロの操作)					
<b>[成績評価の方法]</b> 授業の中で指示する課題・作業について、提出・発表したものをもとに評価する。また、夏休み、冬休みには課題を出す。 くわしくは、授業初回に説明する。	<b>[参考文献]</b>					
<b>[教科書]</b> 河村清一郎・石丸晶子・佐藤嗣男(共著)『文章表現法』(おうふう)						



科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	12	通 期	2 単位	三 浦 俊 介
<b>【講義概要・学習目標】</b> 本講義では、論文・レポートの書き方の習得を目標とする。句読点の打ち方、文・センテンス・段落、論理的展開などに配慮しつつ、日本語文の書き方を習得してもらいたい。文章修行は、大学での成績アップのみならず、就職活動や社会に出てからの仕事などにも大いに役立つはずである。前期は、レポート・論文の書き方の基本を蓄積していく。後期は、前期論文を充実させて、修了論文へと高めていく。	<b>【講義計画】</b> 前期：原稿用紙の使い方や表記・表現の基本を学習する。計算機センターでワープロソフトの講習を受ける。前期講義中に「前期論文」を執筆し、提出する。夏期休暇中に三浦が添削する。 後期：前期論文を発展させて、修了論文を書き上げる。配布資料や学生の前期論文に対する相互の意見交換を通して、論文の書き方について実践的に学習する。			
<b>【成績評価の方法】</b> ①毎回出席を取る。欠席・遅刻の過多は減点対象とする。 ②全講義数の三分の一の欠席をした者には単位を認めない。 ③講義中の提出物・前期論文・修了論文の出来を重視する。	<b>【参考文献】</b> 木下 是雄『レポートの組み立て方』筑摩書房 小河原 誠『読み書きの技法』筑摩書房 中村 明『文章工房』筑摩書房 清水幾太郎『論文の書き方』岩波書店 その他については講義中に随時紹介する。			
<b>【教科書】</b> 教科書は使用せず、随時プリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	13	通 期	2 単位	三 宅 正 彦
<b>【講義概要・学習目標】</b> 文章を読んでその構成を理解し、自分で文章を書いて思想表現を適切に行えるように指導する。 小論文が書けるようになることをめざす。	<b>【講義計画】</b> 文章読解と文章執筆を交互に行う。			
<b>【成績評価の方法】</b> 平常点、	<b>【参考文献】</b>			
<b>【教科書】</b> 資料酉配布 ・資料は酉配布時に出席しているものに1回限り配布する。 ・資料を忘れずに持参すること。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	14	通 期	2 単位	山 川 偉 也
<b>[講義概要・学習目標]</b> 論理的で明快な文章を表現する訓練を徹底して行なうこと。これがこのクラスの目的である。毎回の授業は、一定テーマの下に800字程度の文章を書くことに開始すると考えてもらっているが、それだけに尽きるわけではない。提出された原稿はチェックされ、ワープロで書き直し、提出することが要求される。その繰返しが年間を通じて行われる。ただし、夏休みにはかなり長文の課題文の作成が義務づけられ(8000字程度)、授業終了時には最終論文として1,600字程度の論文を提出することが求められる。	<b>[講義計画]</b> 講義概要・学習目標に書いたことに尽きる。			
<b>[成績評価の方法]</b> 毎回の授業ごとに評価がなされ、その年間の積み重ねが総合的評価となる。ただし、その評価には出席回数のごが含まれる。授業を3回以上欠席した者は、評価対象としない。つまり除籍する。	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b> 尾川正二『原稿の書き方』講談社新書				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	15	通 期	2 単位	佐 賀 朝
<b>[講義概要・学習目標]</b> 論述的な文章を書く能力を身につけるためには、まず論述的な文章を読み、その内容を正確に理解することができなくてはならない。また、そもそも文章を書くためには、伝えたい、あるいは表現すべき内容や自分の考え・意見(疑問でもよい)を持つことが不可欠である。そこで本授業では、論述的文章を書くことを第一義としながらも、その前提として自分の頭で考え、あるいは他人と議論することなどを通じて、自分の意見を持ち、それを整理し深めることなどを重視する。他方、書くことは自分の思考の結果や伝えたいことの表明であると同時に、書くことそれ自体を通じて自分の考えや意見、表現したいことは何かを発見(あるいは再発見)し、整理し、深めることでもある。 文字離れの傾向が加速度的に強まっている今日、書くことや議論すること、あるいは自分で調べ、自分の頭で考え、整理することなどを通じて、自分の疑問や意見を掘り起こし、深めていくことは、他人とは異なる自分を発見・創造し、豊かにしていくためにきわめて重要な作業である。 本授業では、われわれが日々暮らし、学んでいる場である現代の大阪の社会が抱える様々な問題を扱った文章を素材に、読み、整理し、まとめ、疑問を持ち、批評し、討論し、そして自分の意見を書く、という形で論述的な文章能力を鍛えていきたい。意欲ある学生の参加を希望する。	<b>[講義計画]</b> (前期) 指定した文章を読み、担当者を決めてその要約と論点、疑問・批判などを報告し、それを素材に全員で討論する。その上で各自の意見を整理し、文章化する。さらにその文章について、その文面・内容を相互に検討し、再度討論し、議論をまとめる。 以上の行程を一つの基本サイクルとして作業を進め、まず他人の文章を正確に理解し要約すること、感想や疑問を持ち、それを意見や批判にまで高めること、討論をしながら自分の考えを深めること、論述的文章を書くための基礎能力を身につけること、などをめざす。 (後期) 基本的なサイクルは前期と同じ形で進め、扱う文章の分量や内容をレベルアップするとともに、議論を積み重ねていくことを通じて、より内容の豊富な討論や文章作成をめざす。			
<b>[成績評価の方法]</b> 出席・受講態度、報告、討論、作文、レポート・試験などを総合的に評価。	<b>[参考文献]</b> 授業の中で随時、提示する。			
<b>[教科書]</b> 特に定めず、随時、プリントなどを配付する。				

## 「コンピュータ利用Ⅰ」クラス一覧

クラス	担当者	頁	クラス	担当者	頁	クラス	担当者	頁
01	島田 文彦	100	11	田村 昶三	102	21	初瀬 慎一	104
02	島田 文彦	100	12	田村 昶三	102	22	初瀬 慎一	104
03	真庭 功	100	13	田村 昶三	102	23	初瀬 慎一	104
04	水口 薫	101	14	田村 昶三	102	24	初瀬 慎一	104
05	毛利進太郎	101	15	藤間 真	103	25	水口 薫	104
06	毛利進太郎	101	16	藤間 真	103	26	水口 薫	104
07	巖 圭介	102	17	永田 淳次	103	27	水口 薫	104
08	巖 圭介	102	18	永田 淳次	103	28	水口 薫	104
09	島田 文彦	100	19	永田 淳次	103	29	水口 薫	104
10	島田 文彦	100	20	永田 淳次	103	30	水口 薫	104

### 〔注意〕

1. 実習をともなう授業のため、1クラスの受講生は35名以内に制限する。従って応募者が定員を超えた場合、クラスへ参加できないことがある。
2. どのクラスも出席を重視する。一定の成果をあげるために、持続的な訓練が欠かせないからである。
3. どのクラスも今までコンピューターに触れたことのない者を対象として、初歩的なコンピュータリテラシーの伝授を行うことを目的としている。
4. 授業を円滑に運営し、よりよい成果をあげるために、「クラス一覧表」のようなクラス分けを行う。
5. 学則上、この科目は、共通自由科目（共通系）（2単位）・社会福祉学科自由科目（2単位）に位置づけられている。
6. 募集は、次の日程で実施する。

#### 〈申込受付〉学務課窓口

99E・SS・B・L生…4月7日（水）9：10～15：00（11：30～12：30は昼休み）

96～98E・S・SS・SW・B・L生…3月31日（水）～4月1日（木）9：20～15：00（11：30～12：30は昼休み）※4月1日からは、9：10～15：00

#### 〈クラス発表〉4月10日（土）アンデレ館下掲示板

### 7. 申込方法

- ・「コンピュータ利用Ⅰ予備登録票」に必要事項を記入して提出すること。
- ・希望するクラスを3つ以内記入のこと。ただし、同一クラスを記入しないこと。
- ・時間割コードとクラス名が一致しない場合は、時間割コードにより処理するので注意すること。

〈注〉経営学部生対象のプログラミング論Bと同時に履修することはできないので注意すること。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	01 02 09 10	9月集中 9月集中 前 期 後 期	2単位 2単位 2単位 2単位	島 田 文 彦
<b>[講義概要・学習目標]</b>  近年、コンピュータは「読み(=情報の取得)」「書き(=情報の作成)」「そろばん(=情報の加工)」の為の道具としてだけでなく、コミュニケーションの手段としての働きにも注目が集められている。これにより、コンピュータは情報に関わる際の手段としてより大きな役割を持つようになってきている。 また、現在ではコンピュータの機能は多様化・高度化し、得られる情報も大型・複雑化してきた。しかし、それに伴って、機能や情報に振り回される危険性も出てきたため、目的に合わせて機能を使いこなす必要が出てきた。 本講義では、情報の取得、加工、発信を中心とした主なアプリケーション群の使い方を学ぶこと、その知識を用いてコンピュータ、及びアプリケーションの基本構造を理解し、本講義では触れない他のアプリケーションについてもその道具としての使い方を直感的に理解し、十分その機能を使いこなせるような力を付けることを目的とする。	<b>[講義計画]</b>  ・コンピュータの概要と操作方法 : 共通した操作方法の理解 ・文書の作成 : ワードプロを用いた文書の作成と修飾 ・情報の加工 : 表計算ソフトを用いた情報の加工 ・コミュニケーション : 電子メールソフトによる情報の伝達 ・情報の取得と検索 : インターネットの利用  以上のテーマについて数時間ずつの講義・実習を行い、最終的にはそれらを統合した演習を行う。			
<b>[成績評価の方法]</b>  講義時の課題、レポート、出席により評価する。	<b>[参考文献]</b>  桃山学院大学計算機センター(編) 『桃山学院大学計算機センターユーザーズガイド』			
<b>[教科書]</b>  無し				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	03	9月集中	2単位	真 庭 功
<b>[講義概要・学習目標]</b>  インターネットに象徴されるように、高度なコンピュータ・ネットワーク社会に向けて、コミュニケーションをささえるテクノロジーが革新しています。 授業では、コンピュータ活用技法の習得を通して、ハードウェア、ソフトウェア、電子メール、インターネットやマルチメディアなどについて基礎的な知識を概説します。 さらに、パソコンを知的作業のための道具として活用し、問題解決能力やプレゼンテーション能力を養成します。	<b>[講義計画]</b>  1) パーソナル・コンピュータの概要 2) キーボード練習と基本操作 3) 電子メールの基礎 4) インターネットの基本操作 5) ワードプロセッサの活用 6) 表計算ソフトの活用 7) データ分析とグラフ表現 8) その他の情報活用技法			
<b>[成績評価の方法]</b>  出席は3分の2以上。数回のレポートとテストによる総合評価。予習復習などは時間外に行ってください。	<b>[参考文献]</b>  桃山学院大学計算機センター編『ユーザーズガイド』桃山学院大学 必要に応じて指示します。			
<b>[教科書]</b>  必要に応じて指示します。 ・教材は、主にプリントにて配布します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	04	9月集中	2 単位	水 口 薫
<b>【講義概要・学習目標】</b> 近年、情報化社会の特殊な分野、専門性の強いものと思われていたコンピュータとその利用の機会の発達には著しいものがある。その必要性は学習・研究、ビジネスでの普通のものとなり、さらにネットワークの普及は、インターネットのように、瞬時に世界と情報のやりとり、コミュニケーションができるようになってきている。 本講義では、コンピュータをまさにパーソナル・コンピュータ、個人の道具として使いこなす基本知識とその操作を身につけると同時に、コンピュータ・リテラシー（操作だけでなくどのように活用するかという能力）を学習する。	<b>【講義計画】</b> 1. パーソナル・コンピュータ（パソコン）の概要 2. コンピュータの基本操作とキーボード練習 3. 文章の作成（文字変換機能、ワープロソフト） 4. データの概念と処理（表計算、データベースソフト） 5. ネットワークと情報検索（インターネット、e-mail） 6. コンピュータの活用（プレゼンテーション・ソフト） 7. コンピュータの可能性について  9月集中講義であるため、講義実習が連日になる。授業を効率よく進めるため、前もって、コンピュータに接し、キーボード操作の練習をしておくこと。			
<b>【成績評価の方法】</b> 講義時の課題、レポート、出席により総合評価。	<b>【参考文献】</b> 「桃山学院大学計算機センター・ユーザーズガイド」 桃山学院大学計算機センター（編）			
<b>【教科書】</b>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	05	9月集中	2 単位	毛利進太郎
	06	9月集中	2 単位	
<b>【講義概要・学習目標】</b> 近年、コンピュータの発達により、単に計算を行うだけでなく様々な場面で活用されるようになってきている。またインターネットの発達により、様々な情報が電子的に流通し、また発信することが可能となってきている。そこではコンピュータの専門的知識だけではなく、道具として扱うことができる知識が必要となる。 そこで本講義ではコンピュータの基本的な概念を学習し、加えてそれらを身近な道具として使い、またインターネット上の様々な情報を活用するための知識を演習を通して習得することを目的とする。	<b>【講義計画】</b> 以下の事柄について講義を行う予定である。 1. コンピュータの基礎的概念 2. Windows95の操作 3. ワープロによる文書の作成 4. インターネット（電子メール、WWW）の活用 5. 表計算の基本的操作 各項目について数回の演習が主体とした講義を行う			
<b>【成績評価の方法】</b> 随時課題を出し、出席状況と合わせて評価を行う。	<b>【参考文献】</b> 桃山学院大学計算機センター 「桃山学院大学計算機センター ユーザーズ・ガイド」			
<b>【教科書】</b>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	07	前 期	2 単位	巖 圭 介
	08	後 期	2 単位	
[講義概要・学習目標]	<p>コンピュータを使わずに仕事をするのがありえない時代になってきた。少し前ならコンピュータ使用の経験は特技としてアピールできたが、今では使えて当たり前。ワープロを使いこなせないのは字が書けないのと同じ、電子メールを使えないのは電話の使い方を知らないのと同じと言っても過言ではない。この講義では、コンピュータに触ったことのない人を対象に、コンピュータの基礎を学んでもらう。コンピュータは道具である以上、頭で理解するだけではなく実際に使って身体で覚えてもらわねばならない。毎回出席することはもちろんだが、自由時間に自習する必要がある。半期の授業が終わった時、「コンピュータはいちおう一通りのことはできます。」と言えるようになっていてもらいたい。</p>			
[講義計画]	<p>下記の項目について実習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータのさわり方</li> <li>・キーボード入力</li> <li>・電子メール</li> <li>・ワードプロセッサ</li> <li>・表計算</li> <li>・インターネット</li> </ul>			
[成績評価の方法]	出席状況と実習の提出物による			
[参考文献]	とくになし			
[教科書]	桃山学院大学計算機センター編「ユーザーズガイド」			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	11	前 期	2 単位	田 村 昶 三
	12	後 期	2 単位	
	13	前 期	2 単位	
	14	後 期	2 単位	
[講義概要・学習目標]	<p>パソコンを使ったインターネット（電子メールとWWW）は常識になった。しかし、習熟するには、時間とエネルギーがかかる。それを効率的に勉強するパソコン入門者を対象とするパソコン基礎習得を目的とする。パソコンを道具として使いきるためには、避けて通れない「壁」があります。その壁を越えるための授業です。</p> <p>情報処理は大まかに(1)情報収集-(2)情報整理-(3)情報伝達-(4)情報保管蓄積-(5)情報検索の段階に分けられる。この中で(2)-(3)を中心にコミュニケーションの手段としてのパソコンをパソコン実習を通して基礎から勉強を始めます。</p> <p>ビジネスで使われる文書・書類を中心に日本商工会議所検定試験（ワープロ・表計算）の受験を目標にする。検定合格レベルになるには相当な努力が要る。サポートしますので積極的に自習をしてください。</p> <p>初心者を対象にパソコン基本操作から始まります。パソコンの基礎の基礎といわれる所を充分に身につけ、あとは自分で努力することにより身につきます。そのknow-howも勉強します。</p>			
[講義計画]	<p>1. パソコンについて 2. パソコンの基本操作（キータッチ） 3. ワープロソフト（文字入力、表の作り方、グラフ作成） 4. 表計算（データとグラフ）（データ入力、表の作り方、グラフ作成） 5. パソコン通信の活用（仕組み、電子メール、電子会議） 6. インターネットの利用（システム、WWW、電子メール） 7. その他（情報保管蓄積、情報検索）</p> <p>ワープロ（一太郎とWORD）を使い切る。入力のスピードをペンで書くより速く入力できるようになる。 表計算（EXCEL）の基本的な使い方がわかり基礎的な使い方はこなせる。 電子メールをつかってコミュニケーションができる。 インターネットのWWWで情報の検索ができる。 日本商工会議所主催の「日本語文書処理技能検定試験」の合格を目指す。</p>			
[成績評価の方法]	出席が3分の2以上で、レポート提出、理解度テスト、学期末試験により評価する。			
[参考文献]	桃山学院大学計算機センター（編集）『ユーザーズガイド』			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用I	15	前期	2単位	藤間 真
	16	後期	2単位	
<p><b>[講義概要・学習目標]</b></p> <p>「読み書きソロバン」とは、古来から言われている必要技能である。ところが、近年のコンピュータの高性能化、パーソナル化に伴い、コンピュータを操る能力もまた基本的な技能として要求されるようになってきた。</p> <p>本講義では、初心者を対象に、コンピュータを操る基礎の練習を行う。具体的には、タッチメソッド（キーボードに目を向けずに両手で入力する技能）を中心に、ワープロ、表計算、電子メールの基礎を練習する。</p> <p>本講義は、初心者に対するコンピュータリテラシーの伝授を目的としているので、コンピュータの経験を持つものは遠慮されたい。</p> <p>また、実習主体の講義であり、自習も必要となる。積極的に出席した上で、自由時間を活用して自習を進めないと単位修得は困難である。登録時には、このことに留意した上で登録を行うこと。</p>	<p><b>[講義計画]</b></p> <p>下記の項目について説明した上で、実習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンについて</li> <li>・タッチメソッドの修得</li> <li>・電子メール</li> <li>・ワープロソフト</li> <li>・表計算ソフト</li> <li>・WWWブラウザソフト</li> </ul>			
<p><b>[成績評価の方法]</b></p> <p>出席状況、実習の成果物の提出（数回を予定している）及び学期末の試験により評価する。</p>	<p><b>[参考文献]</b></p> <p>進行状態に応じて指示する。</p>			
<p><b>[教科書]</b></p> <p>桃山学院大学計算機センター編 ユーザーズガイド</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	17	前 期	2単位	永 田 淳 次
	18	後 期	2単位	
	19	前 期	2単位	
	20	後 期	2単位	
<p><b>[講義概要・学習目標]</b></p> <p>コンピュータはその名前が示す通り、計算が得意な機械として生まれてきた。このデータを高速で処理するという特徴を活かし様々な情報を処理する道具として発展してきている。現在では、電子メールに代表されるようにコミュニケーションのための道具としても利用されている。</p> <p>本講義は、初心者がコンピュータの概要を理解するとともにその周辺の知識を深めることを目標としている。また、コンピュータの基本的な操作を習熟するために、実習を中心に講義を進める。</p>	<p><b>[講義計画]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータの概要と基本的な操作</li> <li>・電子メールによるコミュニケーション</li> <li>・日本語文書の作成</li> <li>・プレゼンテーション</li> <li>・インターネットの基礎知識</li> </ul>			
<p><b>[成績評価の方法]</b></p> <p>出席重視。提出物の総合評価。</p>	<p><b>[参考文献]</b></p> <p>桃山学院大学計算機センター（編）『ユーザーズガイド』</p>			
<p><b>[教科書]</b></p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	2 1 2 2 2 3 2 4	前 期 後 期 前 期 後 期	2 単位 2 単位 2 単位 2 単位	初 瀬 慎 一
<b>【講義概要・学習目標】</b>  情報化社会は非常に速いテンポで進化し、我々の生活にもさまざまな形で影響を与えている。近年のコンピュータの高性能化、パーソナル化に伴って、コンピュータを操る能力は現代社会においては基礎的な技能として要求されている。 授業では、コンピュータを「電子文房具」として活用するのに必要な知識の獲得を目的としパソコン実習を通して、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークやマルチメディアについて、また表計算、ワープロソフト、インターネットの利用等を学習する。 (経営学部生対象のプログラミング論 B と同時に履修することはできないので注意すること)	<b>【講義計画】</b>  1. パーソナルコンピュータ(パソコン)の概要 2. コンピュータの基本操作、キーボードレッスン 3. インターネット 4. 電子メールとネチケット 5. オフィスツール(ワープロ・表計算)の利用 6. その他の情報活用法			
<b>【成績評価の方法】</b>  提出レポートの評価を中心に試験との総合評価を行う。出席は3分の2以上であること。	<b>【参考文献】</b>  桃山学院大学計算機センター(編)『ユーザーズガイド』			
<b>【教科書】</b>  開講時に指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	2 5 2 6 2 7 2 8 2 9 3 0	前 期 後 期 前 期 後 期 前 期 後 期	} 2 単位	水 口 薫
<b>【講義概要・学習目標】</b>  近年、情報化社会の特殊な分野、専門性の強いものと思われていたコンピュータとその利用の機会の発達には著しいものがある。その必要性は学習・研究、ビジネスで普通のものとなり、さらにネットワークの普及は、インターネットのように、瞬時に世界と情報のやりとり、コミュニケーションができるようになってきている。 本講義では、コンピュータをまさにパーソナル・コンピュータ、個人の道具として使いこなす基本知識とその操作を身につけると同時に、コンピュータ・リテラシー(操作だけでなくどのように活用するかという能力)を学習する。	<b>【講義計画】</b>  1. パーソナル・コンピュータ(パソコン)の概要 2. コンピュータの基本操作とキーボード練習 3. 文章の作成(文字変換機能、ワープロソフト) 4. データの概念と処理(表計算、データベースソフト) 5. ネットワークと情報検索(インターネット、e-mail) 6. コンピュータの活用(プレゼンテーション・ソフト) 7. コンピュータの可能性について			
<b>【成績評価の方法】</b>  講義時の課題、レポート、出席により総合評価。	<b>【参考文献】</b>  「桃山学院大学計算機センター・ユーザーズガイド」 桃山学院大学計算機センター(編)			
<b>【教科書】</b>				



科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用II		通期	4 単位	藤間 真
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義の目的は、基本的なコンピュータ・リテラシーを修得しているものに対し、さらに高度なコンピュータ利用技術を伝授することにある。コンピュータ技術は、現在凄まじい勢いで進化し、変化している。よって本講義では、単純に現在何が出来るかを伝授するだけでなく、新しい技術に対応するための素養の伝授、計算機を使って自分は何をするのかということへの考察も行う。</p> <p>履修登録に際しては、下記の点を理解した上で登録されたい：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な計画は右欄の通りであるが、コンピュータの世界の変化と実習の進展の状態に応じて変更することもありうる。</li> <li>・計算機センターの施設を用いた実習が主体となる。</li> <li>・初心者に対するコンピュータリテラシーの伝授を目的とはしていない。コンピュータの経験を持たないものにとってはハードな講義となる。</li> <li>・実習主体の講義であり、自習も必要となる。</li> <li>・基本的には連絡は電子メールで行う。</li> </ul>		<p>[講義計画]</p> <p>&lt;前期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページを作ってみる。</li> <li>・プレゼンテーション・ソフト</li> <li>・情報検索の基礎</li> <li>・unixの基礎</li> </ul> <p>&lt;後期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オブジェクト指向とJava</li> </ul>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末レポートを主に、平常成績を考慮し、総合的に評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>進行状況に応じて指示する。</p>		
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
有限数学		通期	4 単位	藤間 真
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>小中高と学んでくうちに数学が嫌いになった人は多いでしょう。無味乾燥で現実と無関係だという印象を持っている人も多いと思います。</p> <p>ところが、歴史的には、数学は、無味乾燥な知識体系として突然出現したのではなく、他人と理性的に合意に達するために、筋道立てて議論を進めることや定量的に物事を扱うことから発展した知識体系です。</p> <p>本講義の目的は、理性的に理解を進め、他人と合意に達するための道具としての数学に光を当てることにあります。言い換えると、丸暗記したものを吐き出すだけの数学を扱うことはしません。</p> <p>高校での数学の知識は要求しません。内容的には高校までの数学と重複することもあるでしょうが、まったく新しい切り口で扱います。</p> <p>連絡は掲示によって行いますから、常に掲示に留意してください。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>最初に、筋道をたてて考えたり表現たりすることの基礎付けである論理学の基礎を扱います。</p> <p>続いて現代数学の基本的道具ともいえる集合論の基礎を扱います。</p> <p>後期は「いくつかの数をまとめて扱うために普通の数の概念を拡張する」、という視点からベクトルと行列の基礎と、基礎だけで展開できる応用問題を扱います。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験の成績を中心に、平常成績を考慮して評価します。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>細井勉著、新曜社、「教養の数学」 大村平著、日科技連出版社、「論理と集合のはなし」 大村平著、日科技連出版社、「行列とベクトルのはなし」</p>		
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
解析学		通期	4 単位	藤間 真
<p><b>[講義概要・学習目標]</b>  小中高と学んでくうちに数学が嫌いになった人は多いでしょう。無味乾燥で現実と無関係だと印象を持っている人も多いと思います。  ところが、歴史的には、数学は、無味乾燥な知識体系として突然出現したのではなく、他人と理性的に合意に達するために、筋道立てて議論を進めることや定量的に物事を扱うことから発展した知識体系です。</p> <p>本講義の目的は  ・ “変化” を抽象的に捉える枠組みである関数概念の伝授。  ・ 関数の性質を扱うための学問である微分積分学の初歩の伝授  ・ 数学を扱うソフトウェアの使用法に慣れること。</p> <p>高校での数学の知識は要求しません。内容的には高校までの数学と重複することもあるでしょうが、まったく新しい切り口で扱います。  教科書に指定した「見る微分積分学」は理系の大学用の教科書ですが、きちんと復習をすればついてこれるように、かみ砕いて講義を行いますから、心配する必要はありません。</p> <p>連絡は掲示によって行いますから、常に掲示に留意してください。</p>	<p><b>[講義計画]</b>  &lt;前期&gt;  ・ Macintoshの初歩  ・ Mathematicaの初歩  ・ 関数とは  ・ 関数の実例  ・ 極限とは  ・ 微分とは</p> <p>&lt;後期&gt;  ・ 微分とは (承前)  ・ 積分とは  ・ 応用</p>			
<p><b>[成績評価の方法]</b>  学年末試験の成績を中心に、平常成績を考慮して評価します。</p>	<p><b>[参考文献]</b>  一松 信著 初等関数概説-いろいろな関数- 森北出版  一松 信著 微分積分I はじめて学ぶ人に 丸善</p>			
<p><b>[教科書]</b>  井上 真著 見る微分積分学-Mathematicaによるイメージトレーニング-  東京電機大学出版局</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
総合講座Ⅰ(スポーツと社会)		前 期	2 単位	松 浦 道 夫
<p><b>[講義概要・学習目標]</b></p> <p>かつて、イギリスのスポーツ史家J. ストラッドが「スポーツは社会の鏡である」と述べたように、スポーツは大きな社会現象となりました。マスコミで、スポーツニュースや番組のない日は皆無とあって良いでしょう。現代はスポーツや芸能の世紀ともいえるほどになりました。そしてスポーツの人文・社会科学的分野での研究も盛んになってきました。そこでそれらの成果を踏まえて「スポーツと社会」の関係について「世界の主要国家単位」で、歴史的背景もあわせてながら考察し、論じます。</p>	<p><b>[講義計画]</b></p> <p>&lt;前期&gt; 世界の主要国家と日本のスポーツ事情について、12～13回の予定で講義します。  1回目の講義で各テーマ、担当者の紹介をしますので、注意してください。</p>			
<p><b>[成績評価の方法]</b></p> <p>テーマごとのエッセイと最終講義日のテストで評価します。ただし、受講生が多い場合は変更します。</p>	<p><b>[参考文献]</b></p> <p>授業中にそれぞれ担当者が知らせます。</p>			
<p><b>[教科書]</b></p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
総合講座Ⅰ（スポーツをめぐる諸問題）		後 期	2 単位	松 浦 道 夫
<b>【講義概要・学習目標】</b>  前期の国家単位の問題に続いて、近代、現代を通してのスポーツの社会諸問題について、個々にテーマを設定して考察します。政治・経済・法律・教育・倫理・宗教・民族性・国民性・風土・気候・生活・文化・戦争・平和・人権など、スポーツに関連する社会科学・人文科学的分野での問題は多様で多面的です。この意味で「スポーツと社会」について考察することは、人間集団について研究することにもなります。みなさんと共に「スポーツ学」「人間学」にアプローチしてみたいと思います。	<b>【講義計画】</b>  <後期> 宗教・女性・子ども・障害者・学生・近代オリンピック・ワールドカップ・各種日リーグなどの諸問題をスポーツとのかかわりで論じます。 12回の予定で講義します。 1回目の講義で各テーマ、担当者の紹介をしますので、注意してください。			
<b>【成績評価の方法】</b>  テーマごとのエッセイと最終講義日のテストで評価します。ただし、受講生が多い場合は変更します。	<b>【参考文献】</b>  授業中にそれぞれ担当者が知らせます。			
<b>【教科書】</b>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
総合講座Ⅰ（泉州の今昔Ⅰ） （旧総合講座Ⅱ—泉州の今昔）		前 期	2 単位	深 澤 徹
<b>【講義概要・学習目標】</b>  泉州の今昔Ⅰは「歴史文化」篇である。桃山学院大学の立地する泉州地区に関して、その歴史と文化を概観する。なお総合講座であるので、毎回講師が変わり、それぞれのフィールドに基づいて講義がなされる。	<b>【講義計画】</b>  講義の最初に講師の顔ぶれと講義内容についての予定表を配布する。			
<b>【成績評価の方法】</b>  毎回出席を取るなのでその出席状況、及び学年末に試験を行い、総合的に評価する。	<b>【参考文献】</b>			
<b>【教科書】</b>  特に定めない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
総合講座 I (泉州の今昔 II) (旧総合講座II—泉州の今昔)		後 期	2 単位	深 澤 徹
<b>[講義概要・学習目標]</b> 泉州の今昔IIは「産業社会」篇である。桃山学院大学の立地する泉州地区に関して、その産業と社会を概観する。なお総合講座であるので、毎回講師が変わり、それぞれのフィールドに基づいて講義がなされる。	<b>[講義計画]</b> 講義の最初に講師の顔ぶれと講義内容についての予定表を配布する。			
<b>[成績評価の方法]</b> 毎回出席を取るなのでその出席状況、及び学年末に試験を行い、総合的に評価する。	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b> 特に定めない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
総合講座 I (核の軍事利用：歴史と現実)		後 期	2 単位	後 藤 邦 夫
<b>[講義概要・学習目標]</b> 日本人にとって、広島と長崎の被爆体験に始まる核問題への認識の重要性は自明であろう。冷戦が終わり、「米ソの全面核戦争」の悪夢は後退したが、インドやパキスタンでは核兵器開発が進んでおり、アメリカやロシアは一方で「核軍縮」の合意を回りながら、「臨界前核実験」による兵器の改良が進んでいる。 この状況の下で核兵器問題についての認識を深めること講義の目的である。 核兵器の開発日本に対する使用、日本の敗戦に引き続く冷戦時代の核軍備競争について、あらためて歴史認識を深めることがまず必要である。そのうえで、冷戦後の現在、核兵器の脅威がどのような状況にあるかを考えることにしたい。	<b>[講義計画]</b> 次のような話題についてそれぞれの専門家が分担して講義を行う。 (1) 1940年代の核兵器開発 (2) 「広島と長崎」における核兵器使用の意味と現在に及ぶ影響 (3) 冷戦期の米ソの核開発と軍事戦略について (4) 冷戦後半期から冷戦後に及ぶ核軍縮体制の現実 (5) 冷戦後の世界における核問題の認識			
<b>[成績評価の方法]</b> ほぼ、毎時間クイズを課し、全体の範囲に対して期末にテストを行なう。評価は基本的には期末テストによるが、毎回のクイズの成果はボーダーライン上において考慮されることがある。また、レポートの提出を求め、優れた内容のものがあれば評価に加える。	<b>[参考文献]</b> それぞれの講義の中で示す。			
<b>[教科書]</b> 使用しない。必要に応じプリント等を配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
総合講座 I (地域の歴史と文化財保存 1)		前 期	2 単位	佐賀 朝
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>先行きの見えない状況の現代において、未来に向けた選択を行うにあたり、われわれがまず振り返るのは過去の事実である。われわれは過去のさまざまな歴史、とりわけ、われわれが日常生活を送っている身近な地域の歴史から何を学ぶことができるだろうか。本講義では、歴史学の分野における地域史研究と、それが対象としてきた地域の多様な文化遺産について学び、地域の歴史を学ぶことの現代的意義、あるいは歴史学という学問の社会的役割などについて考えたい。その際、具体的には、</p> <p>①われわれが日々暮らし、働き、そして学んでいる地域には、その歴史を知ることのできる史料＝文化財がどのような形で存在しているのか</p> <p>②地域に残された様々な文化財＝史料から、学問的方法を通じてどのような地域の歴史を明らかにできるのか</p> <p>③地域の文化財保存は、これまでどのように取り組まれてきたのか、また現在どのような状況にあるのか</p> <p>以上の三つを柱に、各時代・各分野で地域史の研究や史料保存に携わっている専門家を何人か招き、リレー講義の形で論じる。講義のなかで取り上げる具体的な地域としては、大学のある和泉地域をはじめ、近畿地方を中心とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>おおむね以下の内容に沿って進める。</p> <p>(前半)</p> <p>考古学とは何か 大阪地域の埋蔵文化財 近畿における文化財保存運動の歴史 文化財保存と現代社会</p> <p>ほか</p> <p>(後半)</p> <p>中世荘園の世界 絵図から何を読みとるか 荘園景観の保存への取り組み 地域の資料館活動</p> <p>ほか</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席・受講態度、各講師による小テスト・レポートなどを総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義のなかで各講師が随時、提示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>各講師がプリント等を配付する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
総合講座 I (地域の歴史と文化財保存 2)		後 期	2 単位	佐賀 朝
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>先行きの見えない状況の現代において、未来に向けた選択を行うにあたり、われわれがまず振り返るのは過去の事実である。われわれは過去のさまざまな歴史、とりわけ、われわれが日常生活を送っている身近な地域の歴史から何を学ぶことができるだろうか。本講義では、歴史学の分野における地域史研究と、それが対象としてきた地域の多様な文化遺産について学び、地域の歴史を学ぶことの現代的意義、あるいは歴史学という学問の社会的役割などについて考えたい。その際、具体的には、</p> <p>①われわれが日々暮らし、働き、そして学んでいる地域には、その歴史を知ることのできる史料＝文化財がどのような形で存在しているのか</p> <p>②地域に残された様々な文化財＝史料から、学問的方法を通じてどのような地域の歴史を明らかにできるのか</p> <p>③地域の文化財保存は、これまでどのように取り組まれてきたのか、また現在どのような状況にあるのか</p> <p>以上の三つを柱に、各時代・各分野で地域史の研究や史料保存に携わっている専門家を何人か招き、リレー講義の形で論じる。講義のなかで取り上げる具体的な地域としては、大学のある和泉地域をはじめ、近畿地方を中心とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>おおむね以下の内容に沿って進める。</p> <p>(前半)</p> <p>近世の村の古文書 村の生産と生活 地域社会のひろがり 史料調査とは何か 自治体史編纂と史料保存</p> <p>ほか</p> <p>(後半)</p> <p>阪神大震災と史料救出活動 地域住民の歴史意識 復興・まちづくりと地域の文化財 現代史の史料としての震災記録の保存 現代社会のなかの歴史学</p> <p>ほか</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席・受講態度、各講師による小テスト・レポートなどを総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義のなかで各講師が随時、提示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>各講師がプリント等を配付する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語学		通 期	4 単位	清 水 真 一
<b>【講義概要・学習目標】</b> <p>「人間言語とは何か」をテーマとする。言語は我々にとってあまりに身近なものであるため、この間には学生諸君の真剣な考察の対象となることはあまりなかったのではなかろうか。本講では、科学としての言語学をその隣接分野とのかかわりの中で眺めると同時に、できうる限り明示的なたたかみで言語にアプローチしてみたい。まずは、そのための分析道具、とりわけ数理論的側面の基本に習熟することに努める。しかる後、「言語」に対する複数個の基本的な考え方を若干紹介することにより、人間を人間たらしめている「言語」につき、受講生各位に今一度思索をめぐらすことを促す。本講が各自各様の考えを醸成する契機となれば幸いである。出席は特に重視する。</p>	<b>【講義計画】</b> <p>(1) 序論――「コミュニケーション」システムについての比較論的考察――  (2) 数理論的基本の準備  ① 集合論  ② 論理学の基本  ③ 形式文法、オートマトン入門  (3) いくつかの句構造文法</p>			
<b>【成績評価の方法】</b> <p>原則として、定期試験、クイズ、出席に基づき総合的に評価する。</p>	<b>【参考文献】</b>			
<b>【教科書】</b> <p>プリントを配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論理学		通期	4 単位	山川偉也
<b>【講義概要・学習目標】</b> <p>論理的に筋道を立てて物事を明晰に理解し表現すること。これは、教養ある人間が身につけておくべき最も基本的なことであると言ってよいであろう。大学で論理学を学ぶことの第一の意義はそこにある。古代形式論理学の完成者アリストテレスは、論理学を「諸学のオルガノン（器官）」と呼んだが、それは論理学があらゆる学問の基礎となるものであったからである。物事を筋道立てて考えることなくしては、学問はおよそ成り立ちえないからである。この講義の眼目は上に述べたこと、すなわち今日の時代における教養ある人間が身につけておくべき最小の素養としての論理的訓練を受講者に与えることにある。したがって、厳密に言えば、これは「講義」ではない。一種の「実技」科目とみなされるべきものである。ただし「身体」にかかわるのではなく、「思考」にかかわるそれである。年間を通じて一貫して追求されるのは練習問題を解くことを積み重ねることを通じての「思考の訓練」ということに尽きる。したがって、毎回の授業に休むことなく出席し、与えられた問題を実際に根気よく解きつづけることがなにより大切である。授業に遅れてきたり、きままに休んだりするようでは、とうていこの授業の単位を修得することは出来ないものと考えていただきたい。</p>	<b>【講義計画】</b> <p>前期は、主として命題論理を中心に、後期は述語論理を中心にした授業を行なう。年間を通じて、可能なかぎり日常の題材について日常の言語を用いて授業をすることにし、難しい記号はできるだけ使わないようにする。が、そうもいかないこともあることに留意してほしい。</p>			
<b>【成績評価の方法】</b> <p>毎回の授業がテストの積み重ねであり、その評価を重く見る。前期末および後期末にも試験を行なうが、それぞれの一発勝負で単位が取れるものと考えないほうがよい。</p>	<b>【参考文献】</b> <p>必要が生じたときに、その都度指示することにする。</p>			
<b>【教科書】</b> <p>山川偉也・清水真一『論理的思考のために』（世界思想社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
倫理学		通 期	4 単位	倉 本 香
<b>【講義概要・学習目標】</b> 「私は何を為すべきか」、「私はいかに生きるべきか」、と考えたことはありますか？ 私たちは行為の仕方の善悪をどのように決めることができるのでしょうか。あるいは、そもそも私たちは自分の行為を自由に選択することができるのでしょうか。できるとするならばそれはどのような意味においてでしょうか。 まず最初に「自由な意志」について考えてみたいと思います。というのは、人間が行為の仕方を自らの意志で自由に選択できてこそ、その選択に対して善悪を問う、という倫理的問題が生じるからです。ところが近代以降、自由な意志を持った人間は、一体何を正しいと判断してきたのでしょうか。近代的な人間の成立と共に出現した倫理的問題を、現代に至るまで勝つてみます。 これらの問題の考察が契機となって、皆さんが自分の行為や生き方を複数の視点から自覚的に選び取ることができるようになれば、と考えています。	<b>【講義計画】</b> 1. 自由・自律の思想（カント） 2. コミュニケーションの倫理 3. 「学ぶ」ことと「生きる」こと（私たちは何のために教育をうけるのか） 4. 本来的な生き方と非本来的な生き方（ハイデガー） 5. 近代的な主体の成立（フーコー） 6. 近代的な主体の問題（ナチズムと優生思想、生命倫理の諸問題） 7. 功利主義と現代倫理の問題			
<b>【成績評価の方法】</b> レポート、自己評価	<b>【参考文献】</b>			
<b>【教科書】</b>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代思想		通 期	4 単位	岩 津 洋 二
<b>【講義概要・学習目標】</b> 私たちは人生の途上でさまざまな恐怖に遭遇する。お化けが怖かったり、友達から嫌われるのが怖かったり、試験が怖かったりする。恐怖ゆえに、私たちははしむことを思い止まり、したくないことをあえておこなう。しかし、私たちの行動の決定に深くかかわっている恐怖がどのようなものであるかについて正しく認識している人は少ない。 この講義は恐怖にとらわれている自分を見つめなおし、恐怖から解放されるための試みである。恐怖という視点をとおして、世界と自分自身を再発見する試みといってもよい。 「現代思想」という講義名から20世紀後半の諸思想の概説を期待しているひとはがっかりするだけである。	<b>【講義計画】</b> 1. なぜ恐怖を問題とするのか 2. 恐怖の諸相－恐怖の分類 3. 近代社会における恐怖のとらえ方 4. 恐怖の心理＝生理学 5. 恐怖の過剰性 6. 対人恐怖症と日本文化 7. 恐怖としての和合 8. 日本の伝統的恐怖対象 9. 未開の恐怖と近代の恐怖 10. 恐怖の利用 11. 集合的恐怖 12. 恐怖の愛好 13. 恐怖への対処の仕方			
<b>【成績評価の方法】</b> 何回かのレポートと学年末の試験による。	<b>【参考文献】</b> 授業中に指示する。			
<b>【教科書】</b>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
心理学	01	通 期	4 単位	加納 真美
	02	通 期	4 単位	
<b>[講義概要・学習目標]</b> 1 心理学の概要を理解させる。 2 乳幼児期・児童期・青年期・老年期等人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴について理解させる。 3 心理学理論による人間理解とその技法の基礎について理解させる。 4 心理的援助技法の概要について理解させる。	<b>[講義計画]</b> 1 人間の心理学的理解 1) 欲求・動機づけと行動 2) 感情・情動 3) 感覚・知覚・認知 4) 学習・記憶・思考 5) 知能・創造性 6) 人格 7) 適応と適応異常 2 人間の成長・発達と心理 3 人間理解のための心理学理論と技法 1) 基礎理論 ①精神分析 ②行動分析 2) 測定と診断 ①発達 ②知能 ③性格 4 心理的援助技法の概要 1) 心理療法 (個別面接法・集団面接法) 2) 家族心理療法 3) 行動療法 他は授業時に提示する。			
<b>[成績評価の方法]</b> 前期末と後期末に試験を実施する。必要に応じて、簡単な実験・調査への参加、レポート提出などを求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。	<b>[参考文献]</b> 市川伸一(編著)『心理測定法への招待』(サイエンス社) 松原達哉(編著)『最新心理テスト法入門』(日本文化科学社) 柏木恵子・古澤頼雄・宮下孝広(著)『発達心理学への招待』(ミッドブックス) 梅本堯夫・大山正(編著)『心理学への招待』(サイエンス社)			
<b>[教科書]</b> 福祉士養成講座編集委員会(編)集『心理学』(中央法規)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
心理学	03	通 期	4 単位	伊藤 高章
<b>[講義概要・学習目標]</b> Psychology という語は、語源的には魂(たましい)もしくは霊(れい)に関する学問という意味である。そして、人類の歴史においてこの魂や霊のことがらは、長く宗教が扱ってきた。本講義では前期において、宗教と心理学との関係を明らかにしてゆくことを通し、近代心理学のもつ人間観の特徴を理解することを目指す。その際特に、フロイトとユングが展開した無意識に関する理論に注目する。後期においては、他者の魂の声に耳を傾ける姿勢を養う意味で、カウンセリング及び「カウンセリング・マインド」について学ぶ。	<b>[講義計画]</b> 以下の内容を含む <前期> 諸宗教における心のケア フロイトの宗教観・人間観 ユングの宗教観・人間観 近代心理学の展開 <後期> カウンセリングの人間観 カウンセリング理論の前提 カウンセリングの理論			
<b>[成績評価の方法]</b> 出席を重視する。 教科書のほかに3～4冊分のブック・レポートを課す。 学年末試験。	<b>[参考文献]</b> 随時指示する			
<b>[教科書]</b> ・山中康裕(1996)『臨床ユング心理学入門』(PHP新書 004) ・小此木啓吾(1989)『フロイト』(講談社学術文庫 860) ・平木典子(1989)『カウンセリングの話 増補』(朝日選書 375)				



科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
心理学	04	通 期	4 単位	伊 藤 正 人
	05	通 期	4 単位	
<b>【講義概要・学習目標】</b> 現代の心理学では、実験や観察という客観的方法により、ヒトや動物の行うあらゆる行動を組織的に研究する。心理学の課題は、このような行動へ影響する様々な要因を探索し、行動の原理（法則）を定式化し、我々の日常場面における様々な複雑な行動を説明することである。近代の心理学の出発点は、ドイツの心理学者Wundtがライプツヒ大学に世界で最初の心理学実験室を創設した1879年にさかのぼる。現在までおよそ120年の現代心理学の歴史は、「こころ」という多義的で曖昧な対象をどの様に捉えるかということに腐心してきた足跡であるといえる。このような先達の努力を振り返ることは、真の意味で心理学の理解を深めることになる。 本講義は、心理学の歴史をたどりながら、現代心理学の課題を理解するための枠組みを提示する。また、教室で心理学の実験を行い、受講者が被験者となることで、心理学のより深い理解を促進させる。	<b>【講義計画】</b> 前期では、まず、心理学の歴史を振り返り、現代心理学の課題を提示する。続いて、心理学の各領域の課題を網羅的に眺めてみる。取り上げる領域は、行動・学習、動機づけ・情動、知覚・認知、パーソナリティである。 後期では、心理学の領域のうち、学習の問題に焦点を当て、「学習の原理」が我々の日常場面の様々な行動にどの様に適用出来るのかを考える。また、名作映画のなかに現れる心理学の問題を取り上げて題材としたい。取り上げる映画は、以下のものである。 「時計じかけのオレンジ」(1971年)、「オズの魔法使い」(1939年)、「羊たちの沈黙」(1991年)、「2001年宇宙の旅」(1968年)、「心の旅路」(1942年) 各自レンタルビデオ等で見ておくこと。			
<b>【成績評価の方法】</b> 成績評価は、講義中に行う数回の小テストと学年末試験による。	<b>【参考文献】</b> 心理学事典 平凡社 現代基礎心理学全12巻 東京大学出版会 行動心理ハンドブック 培風館 心理学双書全10巻 有斐閣 「メイザーの学習と行動」二瓶社			
<b>【教科書】</b> 糸魚川・春木編「心理学の基礎」（前期）有斐閣 佐藤方哉 「行動理論への招待」（後期）大修館				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
キリスト教概論		前期集中	4 単位	滝 澤 武 人
<b>【講義概要・学習目標】</b> キリスト教の根本経典である『聖書』を読むことがこの講義の目標である。いわゆる『聖書』には「旧約聖書」（39巻）と「新約聖書」（27巻）合計66巻のさまざまな時代のさまざまな文書が含まれている。それらは古代ユダヤ民族が残した人類全体にとって重要な知的遺産・世界の古典中の古典であり、今日においてもなお文学・美術・歴史・思想・宗教などに新鮮な光を投げかけている。 前半に「旧約聖書」、後半に「新約聖書」を読み進める予定である。もちろん、大学という場においては、学問的な研究成果を土台とすることになる。真面目な学生諸君のねばり強い努力に期待している。なお、教科書として指定した『聖書』は必ず毎時間持参すること。	<b>【講義計画】</b> 前半は旧約聖書 後半は新約聖書			
<b>【成績評価の方法】</b> 試験・レポート・出席・受講姿勢などを総合的に評価する。	<b>【参考文献】</b> AERA Mook 『旧約聖書がわかる。』（朝日新聞社） 『新約聖書がわかる。』			
<b>【教科書】</b> 新共同訳『聖書』（日本聖書協会）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
キリスト教史		通 期	4 単位	伊 藤 高 章
<b>【講義概要・学習目標】</b> <p>本年度は、ヨーロッパ宗教改革に対するカトリック側の反宗教改革運動の中で成立したイエズス会、及びイエズス会士フランシスコ・デ・ザビエルの活動を手がかりに、近世のキリスト教の歴史を広く学ぶ。またこの時代の西ヨーロッパの国際関係、海外貿易、帝国主義的な進出にも言及し、教会の側からみた教会の歴史ではなく、人類の歴史におけるキリスト教の動きに注目する。 キリスト教とアジア文化、特に日本の文化との接触の問題もとりあげる。</p>	<b>【講義計画】</b>			
<b>【成績評価の方法】</b> <p>前期提出のブックレポート 2～3本 学年末試験</p>	<b>【参考文献】</b> <p>『聖フランシスコ・デ・ザビエル書翰抄』 上・下巻、 (岩波文庫 青 818-1・2)</p>			
<b>【教科書】</b> <p>・フィリップ・レクリヴァン『イエズス会』（「知の再発見」双書 53） 創元社 1996 年 ・遠藤周作『沈黙』</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
聖書研究		前期集中	4 単位	滝 澤 武 人
<b>【講義概要・学習目標】</b> <p>イエスという人間の歴史的な姿を明らかにすることがこの講義の目的である。そのためには200年にわたる福音書の学問的な研究成果を土台としなければならない。そして、どれがほんとうのイエスの言葉なのか、どのような歴史的状況の中で（誰に対して何のために）言われた言葉なのかを慎重に判断しなければならない。イエスはいわゆる「被差別民衆」とともに生き、人間の自由と尊厳のために最後まで戦いぬき、そのために十字架につけられて殺された人間であるといえよう。イエスの生きざまは、「キリスト教」という宗教の枠を越えて、今日でも世界中の多くの人々に大きな感動を与えるはずである。特に教育・社会福祉・医療・人権・ボランティアなどの問題に関心を抱く諸君の熱心で主体的な受講を期待している。指定した教科書は必ず毎時間持参すること。</p>	<b>【講義計画】</b> <p>滝澤武人『人間イエス』（講談社現代新書）にしたがって講義する。  序章 イエスをもとめて 5章 どう生きる？  1章 おいたち 6章 教会は？  2章 被差別民衆 7章 終末  3章 ヒーリング（癒し） 8章 死  4章 どんな男？ 終章 復活</p>			
<b>【成績評価の方法】</b> <p>試験・レポート・出席・受講姿勢などを総合的に評価する。</p>	<b>【参考文献】</b> <p>田川健三『イエスという男』（三一書房）  荒井 献『イエスとその時代』（岩波新書）  八木誠一『イエス』（清水書院）</p>			
<b>【教科書】</b> <p>新共同訳『聖書』（日本聖書協会）  滝澤武人『人間イエス』（講談社現代新書）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本思想史		通 期	4 単位	三 宅 正 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日本の歴史に大きな影響を与えた思想は神道・仏教・儒教・陰陽道・切支丹である。この講義では、それら諸思想の特性と相互作用を考察するとともに日本思想の歴史的特質を追究する。授業は資料読解を通じて進めていくからそのための自主的な意欲がなければ、授業内容は理解できなくなることをあらかじめことわっておく。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>(1) 神道 (資料は『古事記』神代巻など)  (2) 仏教 (『大無量壽經』など)  (3) 切支丹 (『どちりいな-きりたん』など)  (4) 儒教 (『大学章句』など)  (5) 陰陽道 (『大雑書』など)</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験(講義全体を理解しなければ単位は取得できない。欠席しないこと、私語しないこと)</p>		<p>[参考文献]</p> <p>石田一良編:体系日本史叢書『思想史』II (山川出版社、</p>		
<p>[教科書]</p> <p>資料配布  ○資料は配布時に出席しているもの(2/回限り交付する。  ○資料は毎時必ず持参すること。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋思想史		通期	4 単位	山川偉也
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>今年度は「哲学の根本問題—時間と自己—」と銘打って、西欧思想史上の十人の哲学者、すなわちヘラクレイトス、プラトン、アリストテレス、アウグスティヌス、デカルト、カント、ヘーゲル、ベルクソン、ハイデッガー、ウイトゲンシュタインを取り上げる。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>前期はヘラクレイトスからアウグスティヌスまで、後期はデカルトからウイトゲンシュタインまでを講義する。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席態度と前・後期の試験の結果を総合して判定する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>教科書として挙げたものは前期講義分に利用するものである。後期については適当な教科書がないので、必要となったときに参考書を指示することにする。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>山川偉也『古代ギリシアの思想』(講談社学術文庫)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
キリスト教と英米文学		通 期	4 単位	谷 本 泰 三
<b>【講義概要・学習目標】</b> 神と悪魔、信仰と不信、希望と絶望、この対極の間でバランスをとろうとする人間を描いた英米文学作品を取り上げる。その狙いは、英米文学史の底流となっているキリスト教思想や反キリスト教思想を検証することにある。講義を通してキリスト教への理解を深めると共に、優れた文学作品が与えてくれる喜び、恐怖、そして感動を体験して欲しい。常に聖書に言及しつつ講義を進める。講義はできるだけ原作品に密着して行うので指示された作品の原典を予習しておくことが必須となる。全講義の詳細なアウトライン（学習ガイド付き）を2回目までに用意しておくのでそれに従って予習するように。		<b>【講義計画】</b> 前期 1-2 Wordsworth "We are Seven" 永遠の命と無垢 Cummings "Buffalo Bill's defunct" 死を超えるイエス 3-4 Marvell "To his Coy Mistress" 生への空しい欲望 5-6 Hawthorne "The Minister's Black Veil" 人間は罪の存在 7 Herbert "Love" 罪を赦すキリスト 8 Milton "On His Blindness" 絶望から希望の信仰へ 9-13 Faulkner "That Evening Sun" イエスの再臨と黙示文学 14 まとめ 後期 1-4 Melville <i>Moby-Dick</i> 不信の男とキリストになりそこなった男 5-9 O'Connor "Good Country People" 障害者・健全者と悪魔 10 Christmas carols, English and American 信仰の喜び 11 "Good Country People" つづき 12 まとめ 13 予備		
<b>【成績評価の方法】</b> 前期 小論文 後期 期末試験 年間を通じて平素の努力点		<b>【参考文献】</b>		
<b>【教科書】</b>  聖書 谷本泰三（著）「学習ガイド・講義アウトライン」				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民俗学		通 期	4 単位	橋 内 武
<b>【講義概要・学習目標】</b>  民俗学は庶民が生活の中で伝承してきた文化を観察・記録する中から成立した学問である。その対象範囲は生活文化全般にわたるが、本講では、前期に人生儀礼・年中行事・俗信、後期に口承文芸（とくに昔話）を取り上げる。これらの文化事象を扱いながら、民俗の見方を手に入れることが学習目標となる。		<b>【講義計画】</b> <前期> 1. 民俗学とは何か 2. 人生儀礼 3. 年中行事 4. 俗信 <後期> 1. 口承文芸とな何か 2. 昔話の分類（むかし語り、動物昔話、笑話、形式話） 3. 昔話研究法（起源・歴史・構造・機能）		
<b>【成績評価の方法】</b> 原則として試験による。但し、聞き書きまたは観察に基づくレポートを夏休み後に提出するとボーナス点が与えられる。		<b>【参考文献】</b>  赤田光男ほか編 『講座 日本の民俗学』 雄山閣  稲田浩二ほか編 『日本昔話通観』 同朋社		
<b>【教科書】</b>  稲田浩二・稲田和子編著 「日本昔話百選」 講談社文庫				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文学概論		通 期	4 単位	和 栗 了
<b>【講義概要・学習目標】</b> 文学とは何かという問題に解答を出すために、文学作品をいかに読むべきかを、具体的に講義する。作者が自ら信ずる真理を読者に伝えるために最も効果的な表現手段を選択したとすれば、読者はその表現を読む技術を必要とする。作者が選択した最良の表現を、詳細に、正確に、そして想像力豊かに読む方法を受講生に伝える。 次に、文学作品を読む技術を身に付けた読者に要求されるものは、読者自身である。読者としての我々はどのような人間なのかを見たい。これが最終目標である。	<b>【講義計画】</b> 第1回目の授業で指示する。			
<b>【成績評価の方法】</b> 年2回のレポートによる。	<b>【参考文献】</b> 第1回目の授業で指示する。			
<b>【教科書】</b> 第1回目の授業で指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較文学		通 期	4 単位	赤 瀬 雅 子
<b>【講義概要・学習目標】</b> 近年、わが国では比較文学研究がますます盛んになってきた。比較文学は今世紀のはじめ、フランスにおいて始まった学問である。そして1960年代にひとつの頂点に達したものである。 この学問は文学研究の一方法であり、その意味では、例えばフランス文学研究等と同質のものであった。加えて同時代の外国文学の深い影響を考察するものであることが、厳守され、それに反する研究は比較文学とは見なされなかった。また古典の比較文学的研究も歓迎されなかった。 このような多くの制約から自由になろうとして起こったのがアメリカを中心とした対比的研究方法である。この方法から派生した比較文学と平行して比較文化を考察しようとする方法は意外な成果を生み、わが国においても比較文学・比較文化の研究が主流となってきた。 基本のアカデミックな比較文学の方法を紹介しながら、新しい対比研究の方法をも具体的に考察する。	<b>【講義計画】</b> 現在、わが国の多くの大学で比較文学の講義を担当している多くの研究者が大学生のために書き下ろした数編ないし十数編の論文に触れながら、比較文学・比較文化を学ぶ楽しさを引き出して行く。コスモポリタンなものの考え方をすることの大切さを常に意識したい。			
<b>【成績評価の方法】</b> 前期末に提出するレポートと、学年末の試験とのふたつが重要であるので、どちらも欠かないようにしていただきたい。出席率をよくすることも大切である。成績評価はそれらの総合によってなされるものである。	<b>【参考文献】</b> 富田仁・赤瀬雅子著『明治のフランス文学』（駿河台出版社）			
<b>【教科書】</b> 松村昌家編『比較文学を学ぶ人のために』（世界思想社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
哲学特講（ソクラテスとその時代）		通期	4単位	山川偉也
<b>[講義概要・学習目標]</b> 「哲学」の起源を尋ねていくと、ソクラテスという人物にぶつかる。これは不思議な人物である。四聖の一人に教えあげられたりすることもあるが、実のところ、何故そうなっているのかよく分からない。しかし、この人物が西洋思想史上はじめて実質的な「哲学」を始めたことは間違いない。では、その「哲学」とは何であったのか。ソクラテスが生きた時代のさまざまな状況を具体的に押さえながら、「哲学者」ソクラテスという希有の人物の姿を浮き彫りにし、ひいては「哲学」の本性に迫ることとしたい。	<b>[講義計画]</b> 前期は、いわゆる「ソクラテス問題」を中心に、プラトンの初期対話篇やクセノフォンの『ソクラテスの思い出』等に即してソクラテスの実像に迫る講義をし、後期は「哲学」のほうに焦点を移し、西洋思想史上における「哲学」の意味について考えることとしたい。			
<b>[成績評価の方法]</b> 前期末試験および学年末試験の成績を総合して評価する。	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b> 山川偉也「古代ギリシアの思想」講談社学術文庫				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文学特講（日本近代文学の短編小説作家達）		通 期	4単位	佐藤慶子
<b>[講義概要・学習目標]</b> 日本の近代（明治・大正・昭和）文学の、短編小説に優れた作家達の作品を取り上げる。 再履修で就職活動に忙しい者や、やむを得ざる事情で休まねばならない者の立場も考慮し、毎回、一話完結とする。 短編小説は、長編小説と違い、一語一句にこめられた、作者の思いを汲み取ることが重要になる。さまざまな人間の生き様を見詰めることで、自分の生きる参考にしてほしい。	<b>[講義計画]</b> 担当範囲を割り当てて、発表させ、質疑応答と討論で授業を進める。 発表者以外にも意見を求めるので、積極的に参加してほしい。			
<b>[成績評価の方法]</b> ①出席（最重視）                      ④提出物 ②前、後期末試験                      ⑤発表 ③夏、冬休暇中の課題                ⑥授業中の態度	<b>[参考文献]</b> 適宜、紹介する。			
<b>[教科書]</b> 適宜、コピーを配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋社会史		通 期	4 単位	種 田 明
<p><b>[講義概要・学習目標]</b>  本講義は社会科学の、なかでも社会史を中心に、阿部謹也氏の歴史研究を解説し、現代世界に生きる私たちが抱える諸問題を読み解くための基本認識、あるいはそのためのヒントを探ることを目的としている。  社会科学とは、政治学・経済学・社会学などを基軸として、現実の社会・世界を解剖し分析する学問の総称である。日本においても、また世界においても1970年代からさまざまな「社会史」が巷間に溢れ出てきている。社会科学の中の社会史は、総合的な視角から人間と人間集団（地域、民俗、社会…）を「全体」として捉えていくべきものであろう。狭義としての、人間活動の特定領域を対象とする部分史ではなく、「社会（全体）史」として広義に考えてゆきたい。  阿部社会史の方法は、人と人／人とモノとの「関係」（絆・交換・贈与…）をドイツ中世からさぐり、日本との比較を試みるものである。読み解くなかから「生きる」「生活する」ことの意味を考え、学問の厳しさと楽しさを味わってほしい。知的好奇心旺盛な、積極的に質問・疑問を投げかけてくれる受講生の参加を期待している。</p>		<p><b>[講義計画]</b>  3分の2 ドイツ中世社会史の諸問題を通して、現代につながり現代と交差するものはなにかを考え講義解説していく。  U・エーコ「薔薇の名前」のVTRをみて、修道院について概観する。   3分の1 ドイツ中世都市フランクフルトについての研究（都市史）の概要について解説講義する。</p>		
<p><b>[成績評価の方法]</b>  出席・平常（小テスト） 10+20% 欠席5回は受験資格なし  試験（講義最終日）または レポート（履修者数による） 70%</p>		<p><b>[参考文献]</b>  講義中に提示する。</p>		
<p><b>[教科書]</b>  阿部謹也『社会史とは何か』筑摩書房、1989年  小倉欣一・大澤武男『都市フランクフルトの歴史』中公新書、1994年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
東洋史	01	通 期	4 単位	松 浦 典 弘
	02	通 期	4 単位	
<p><b>[講義概要・学習目標]</b>  7世紀から10世紀を中心に前後の時代も取り上げながら、中国の歴史を述べていきます。同時に周辺諸民族との関係も取り上げていきたいと思います。  講義の中心となる中国王朝は唐（618～907）です。唐は我々日本人にとっては最もよく名の知られている王朝で、中国王朝の典型的な姿と考えられる場合もあるようですが、実際は北方の遊牧民族に出自が求められ、漢民族的色彩のうすい王朝でした。また、8世紀の半ばを境にその性格は変質し、後半は内陸アジアに建国された回鶻（ウイグル）や吐蕃（チベット）に圧倒されがちで、世界帝国のイメージとはかけ離れたものでした。このような唐朝の歴史を、それに先立つ南北朝時代や、それに続く遼・北宋時代などを視野に入れながら講義を進めていきます。同時期の日本との関係にも言及する予定です。</p>		<p><b>[講義計画]</b>  魏晋南北朝時代史の概観  隋唐時代の政治（何人かの人物・いくつかの事件に焦点を当て述べる予定）  唐代の都市と文化  唐と内陸アジア  唐と東アジア  唐代の日中交渉  唐の滅亡と五代十国  北宋と遼  宋代の日中交渉  単なる通史ではなく、以上のようなトピックから問題点を取り上げ述べていく予定です。</p>		
<p><b>[成績評価の方法]</b>  期末試験</p>		<p><b>[参考文献]</b>  授業中に適宜紹介します。</p>		
<p><b>[教科書]</b>  藤善真澄責任編集『アジアの歴史と文化』2（同朋舎）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アジア文化史		通期	4単位	原山 煌
<p><b>〔講義概要・学習目標〕</b>            気候は酷寒から炎暑まで。生業も遊牧、漁撈、そして農耕。一口にアジアと言っても実に多様な表情がそこにはある。            本講義では、アジアの多様な表情を概括的に、しかし確実に把握し、そのうち、いわば各論として、農耕民と遊牧民の関係を歴史的にふりかえってみる。中国を中核とする東アジアの歴史は、この両者のかかわりによって展開されてきたと言えるからである。            遊牧民が大きく関わってくりひろげられてきた東西交流のありようをも、かれらの立場から考えてみよう。ユーラシアの歴史が、今までの認識とはちがう新しい姿で立ち現れるはずである。            また、現在世界を揺るがせている民族問題も、この地域の大きい問題点となっている。巨大な多民族複合国家としての中国、興味深い比較対象としてのロシア世界における民族問題をも視野に入れて、その発祥と経緯について考察を進めてみよう。</p>		<p><b>〔講義計画〕</b>            1. アジア世界の概括的理解            2. 2つの生業－農耕と遊牧－            3. 遊牧という暮らし            4. 農耕民と遊牧民の相剋            5. 東西交流のありかた            6. 中国周辺における民族問題－その沿革と現状－</p>		
<p><b>〔成績評価の方法〕</b>            授業への理解度を確認するための小テスト、年数回のレポート（参考文献を3冊以上参照したオリジナルな論考に限る。既存文献の丸写しは除籍）と、各期末の定期試験の成績によって総合的に評価する。</p>		<p><b>〔参考文献〕</b>            授業中に随時紹介する。</p>		
<p><b>〔教科書〕</b>            松田壽男『アジアの歴史－東西交渉からみた前近代の世界像』同時代ライブラリー 岩波書店 1992。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋文化史		通 期	4 単位	岩 津 洋 二
<p><b>〔講義概要・学習目標〕</b>            「西洋」と称される地域には多くの民族が存在し、それぞれ独自の文化的な伝統をもっている。その点では、世界の他の地域の場合と同様である。しかし、今日の世界において「西洋」は単なる一地域の名称にとどまるものではなく、先進の近代社会の代名詞でもある。多くの国々にとって近代化とは西洋化のことにほかならない。明治以降の日本と日本人にとっても、西洋と西洋人は模倣すべきモデルであった。            今年度の講義では、前期は「西洋文化」の特質について、一般の日本人にはなじみの薄いであろう側面にも焦点を当てながら概説する。後期は、世界史の中での「西洋」の位置について検討するとともに、現代のヨーロッパで最重要課題のひとつとなっているナショナリズムの問題もとりあげる。            近代の日本人の西洋への無批判的な憧憬を解体し、西洋を冷静に見直すきっかけとなる講義にしたいと考えている。</p>		<p><b>〔講義計画〕</b>            I. 西洋文化史の課題と射程            II. 西洋文化の伝統と近代            III. 西洋の統一性と多様性            IV. 西洋の自己規定            （第1回目の講義で、より詳細な講義計画を示す）</p>		
<p><b>〔成績評価の方法〕</b>            何回かのレポートと学年末の試験による。</p>		<p><b>〔参考文献〕</b>            授業中に指示する。</p>		
<p><b>〔教科書〕</b></p>				



科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人文地理学	01	通 期	4 単位	野尻 亘
<p><b>[講義概要・学習目標]</b>            地理学は「地域」・「空間」および人間の「空間的行動」や「環境知覚」などを研究対象としている。地理学も当然のことながら固有の理論や法則を持っている。本講では人文地理学の理論や方法論の基礎について、学説史の流れに沿いながら展望することとしたい。            地理学の論文を読む時、地理学の研究を行う時に必要な思想の体系についてわかりやすく解説する。            従って、中学・高校で学習する「地理」の授業の内容とは異なる話となることを予め承知していただきたい。            社会学・経済学・経営学を専攻する学生にとっての専門課程での教育内容と関連した授業を提供することを心がけたい。</p>	<p><b>[講義計画]</b>            〈前期〉1. 探検記・産物誌から近代地理学へ 地理と地誌の違い            2. 生態学的視点と地域システム フンボルト・リッター            ラッツェル・ブラーシュ            3. コロロギーから「地域分化」の研究へ リヒトフォーフェン・マルテ・ハーツホーン            4. 地理学における例外主義批判と計量革命            5. 「地域」と「空間」の違い 流動を分析する視点グラヴィティモデル            6. 行動地理学とタイムジオグラフィー            〈後期〉7. 人文主義地理学 場所や景観の意味づけについて            8. マルクス構造主義と都市研究            9. 立地論 ウェーバー 輸送費・労働費・集積の利益            10. 立地論 レッシュ 市場の均衡と立地条件            11. クリスタラーの中心地研究            12. ハブの商圏モデル            13. 地理学とは何だろわか</p>			
<p><b>[成績評価の方法]</b>            レポートにするか試験にするかは授業の進捗と履修状況を見て決定する。</p>	<p><b>[参考文献]</b>            ディッケン・ロイド『地理と空間 上下』古今書院            西川 治 『人文地理学入門』東大出版会</p>			
<p><b>[教科書]</b>            使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人文地理学	02	通 期	4 単位	藤 森 勉
<p><b>[講義概要・学習目標]</b>            本講義では、人間の社会生活・社会活動が「地域」とどう関わってきたか、どんな問題があるかを事例研究の成果をもとに具体的に解説する。            その場合、地域の大きさや社会集団の大きさによって、それぞれ異なった関係が見られるので、前期は大スケールの場合を後期は小スケールの場合を取り上げる。</p>	<p><b>[講義計画]</b>            〈前期〉大スケールの地域としてオーストラリアを対象とし、次の課題を解説する。            (1) 先住民アボリジニーの生活と社会。            (2) イギリス植民地政策とアボリジニーの社会生活。            (3) 連邦成立と中国人・日本人移民。            (4) 日豪経済関係。            〈後期〉小スケールの地域として日本国内の諸地域について地域社会問題を解説する。            まず、人口分布・人口構成を解説した上で、            (1) 平野の農村 (2) 島の漁村 (3) 過疎山村 (4) 地方小都市            (5) 巨大都市を対象として地域の実態と問題点を解説する。</p>			
<p><b>[成績評価の方法]</b>            定期試験による。</p>	<p><b>[参考文献]</b>            必要に応じ紹介する。また、地図・資料等のプリントを配付する。</p>			
<p><b>[教科書]</b></p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
環境問題概論	01	通 期	4 単位	巖 圭 介
<p><b>[講義概要・学習目標]</b></p> <p>地球環境は、かつてない速度でその姿を変えている。今や環境の変化は全地球規模で起こっており、それを引き起こしているのは決して一部の企業などの所業ではなく、一人一人の市民の生活そのものである。医療の発達と栄養の充実が人口の爆発的な増加を招き、増えた人口を支えるため激化した土地からの収奪のため地球の緑が失われていくことで、地球大気の大気定常性が揺さぶられている。化石燃料から排出され続ける二酸化炭素による地球の温暖化は、はっきりと目に見える影響を示しはじめている。現代生活に根付いている無数の化学合成物質は、地球のすみずみまで汚染し、私たちの身体をも蝕んでいる。この授業では、これらの全地球的な環境問題についての基礎的な理解を深め、環境意識を高めてもらうことを目的とする。</p>	<p><b>[講義計画]</b></p> <p>おおむね次のようなテーマに沿って進行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口爆発</li> <li>・失われる熱帯雨林</li> <li>・砂漠化する大地</li> <li>・汚される地球 <ul style="list-style-type: none"> <li>DDT・PCB、ダイオキシン、環境ホルモン</li> </ul> </li> <li>・あふれるゴミ</li> <li>・水質汚染</li> <li>・破壊される地球システム <ul style="list-style-type: none"> <li>酸性雨、オゾン層破壊、地球温暖化</li> </ul> </li> </ul>			
<p><b>[成績評価の方法]</b></p> <p>前期末と後期末2回の論述式試験、夏休み、冬休みのレポートに加え、授業中に数回提出してもらう感想文により判定する。</p>	<p><b>[参考文献]</b></p> <p>適宜授業中に示す</p>			
<p><b>[教科書]</b></p> <p>とくになし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
環境問題概論	02	通 期	4 単位	鈴 木 善 次
<p><b>[講義概要・学習目標]</b></p> <p>今日、人類を取り巻く環境は悪化の一途をたどっている。オゾン層の破壊、温暖化、酸性雨などの地球規模のものから最近では環境ホルモン、ダイオキシンなど身近にも新たな問題が生じている。本講義では、それぞれ環境問題とは何かから検討を始め、今日の環境問題の本質、科学文明の問題へと学生諸君を誘う。それを通して自分たちのライフスタイルのあり方を考えよう。</p>	<p><b>[講義計画]</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間にとって環境とは何か。</li> <li>2. 環境問題とは何か。</li> <li>3. 環境問題の歴史</li> <li>4. 今日の身近な環境問題</li> <li>5. 今日の地球規模の環境問題</li> <li>6. 環境問題解決の方策</li> </ol>			
<p><b>[成績評価の方法]</b></p> <p>講義中に求める感想、夏休みレポート、学年末のテストの結果を総合的に評価する。</p>	<p><b>[参考文献]</b></p> <p>鈴木善次著『人間環境教育論』(創元社) その他講義中に紹介する。</p>			
<p><b>[教科書]</b></p> <p>とくになし。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
自然環境論		通 期	4 単位	井 田 和 子
<b>【講義概要・学習目標】</b> 自然秩序や自然システムの複雑な因果関係を軽視した大規模な資源開発や土木・建設事業などが、大災害の原因や誘因になることが多くなった。地域的自然システムの地球科学的認識、人間を含む全生態系の研究、地域環境学としての地理学の考察と応用が不可欠なのである。ここでは、日本列島の風土的特色を総合的に把握できるように留意した。	<b>【講義計画】</b> 前期：日本の歴史的風土，日本人の自然観，日本の地質・地形，地形環境と開発史，日本の気候の特色と生活，水文環境，日本の森林と文化，自然環境の利用と保全 後期：大気汚染・水汚染の舞台，土・植生と環境，人口・都市と環境，産業と環境，エネルギーと環境，交通と環境，開発と保全，公害地誌（各国の公害）。			
<b>【成績評価の方法】</b> 期間中の数回のレポートを書いてもらい，期末テストの結果とあわせて評価する。	<b>【参考文献】</b> 放送大学教材，奈須・西川著，日本の自然古今書院，福岡義隆，図説環境地理—地球環境時代の地理学—			
<b>【教科書】</b> 毎回プリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
環境と法		前期集中	4 単位	土 屋 正 春
<b>【講義概要・学習目標】</b> 16000億円。これは日本における汚水浄化・排煙脱硫など各種環境保全関連設備の年間出荷額だ。これだけ国民が負担していても、「環境問題」は深刻になりこそすれ、改善の傾向にはない。1日25万人のペースで増える世界人口が、先進諸国の「文化的生活」を目指して「発展」している以上、最高のクリスマスプレゼントはエベレスト近辺の空気という日が訪れるのも近い。が、そのカトマンスでさえ、混雑した道路は排ガスとごみの腐臭にあふれている。 成長と発展と信じて来た道にブレーキをかけねばならない。では、法には何が出来て何が出来ないのか。人々の「文化的生活」志向を法はコントロール出来るのか。環境問題のあり方と対応とを、法を視座の中心としつつ考えることとする。	<b>【講義計画】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の授業で1つのテーマを扱うことを原則とします。</li> <li>・ベースとなるテーマ表は第2回目の授業時にお知らせします。</li> <li>・受講生の積極的な参加型式をとります。</li> </ul>			
<b>【成績評価の方法】</b> レポートを数回課します。 (フロッピーディスクで提出していただきます)	<b>【参考文献】</b>			
<b>【教科書】</b>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
環境と経済		前期集中	4 単位	仁 連 孝 昭
<b>【講義概要・学習目標】</b> 河川・湖沼の汚染、廃棄物問題、発展途上地域の開発と環境など、具体的な事例をとりあげながら、環境問題と経済がどのようにかかわっているのか概観する。その上で、持続可能な人間と環境との関係はどのようなものであるべきかを概説する。最後に、それらをふまえて、環境税、ライフサイクル・アセスメント、環境の経済的評価など、経済と環境の調和のための制度的工夫について述べる。	<b>【講義計画】</b> 1. 河川・湖沼の環境汚染とその対策 2. 廃棄物と豊かな社会 3. 発展途上地域の開発と環境 4. 人間行動と環境 5. 農業と環境 6. 工業と環境 7. 持続可能な社会とは 8. 経済的手段（環境税）はどこまで有効か 9. 環境の経済的評価 10. 環境と経済は両立するか			
<b>【成績評価の方法】</b> 試験と授業中に適宜課すレポートによって評価する。	<b>【参考文献】</b> シューマッハー(小島慶三他訳)『スモール イズ ビューティフル』講談社学術文庫 グレーデル、アレンビー『産業エコロジー』トッパンエキンズ『生命系の経済学』お茶の水書房 本山美彦『豊かな国、貧しい国』岩波書店 室田武、多辺田政弘、槌田敦『循環の経済学』学陽書房			
<b>【教科書】</b> 教科書は定めない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ギリシア語		通期	4 単位	山川偉也
<b>【講義概要・学習目標】</b> 西欧の文化の根源はギリシアにある。西欧の文化をある程度以上に深く学ぼうとするなら、ギリシア文化を知らなければならない。そしてギリシア文化を確実に知る道は、その言語を学ぶことである。 この授業は、ギリシア語の学習をしながらギリシアの文化を学びたいと思う人のために開講される。語学一辺倒ではない。時にはビデオを見たり、古典の解題をしたりしながら、楽しい授業にしたいと考えている。	<b>【講義計画】</b>			
<b>【成績評価の方法】</b> 毎回の授業への出席態度と試験の結果を見て総合的に判定する。	<b>【参考文献】</b>			
<b>【教科書】</b> 田中美知太郎・松平千秋『ギリシア語入門』（岩波書店）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
インドネシア語		通 期	4 単位	山本 浩子
<p><b>[講義概要・学習目標]</b>  インドネシア語は、マレー語を母体とするインドネシア共和国の公用語である。ゆえに、様々な違いはあるものの、マレーシアやシンガポールでもインドネシア語は通じる。インドネシア国内には、一方で地方語というものがある。バリやジャワなど、各地域の民族集団が独自に用いて、豊かな言語世界を形成している。この地方語と公用語としてのインドネシア語は、日本での方言と標準語という対比とは違い、大きく異なる言語である。ゆえに、インドネシアでは、政治、教育、マスコミなどの公の場ではインドネシア語が共通語として用いられる一方で、例えば同じバリ人どうしの間では、地方語であるバリ語が用いられ、それはたとえ同じインドネシア人であっても、バリ人以外には理解のできない言語である。  授業では、インドネシア語の基本的な運用能力の習得を目標とする。かつ、講義終了後も、各自の必要に応じて独習を継続する力を身につけることを目標とする。まず簡単な会話文をもとに、最小限の文法事項を説明していく。前半では、学習の初期段階として、暗記が重要であることを心掛けてほしい。後半では、前半での習得事項をもとに、少しでも実際に口に出してコミュニケーションがとれるようになることをめざす。</p>	<p><b>[講義計画]</b></p> <p>&lt;前期&gt; 発音/挨拶・自己紹介の表現/人称代名詞/DM(修飾・被修飾語)の法則/疑問詞の使い方/数量の表現/時の表現/場所の前置詞/等位接続詞/接辞(インドネシア語の造語法)/辞書の引き方</p> <p>&lt;後期&gt; 命令文/インドネシア語の態/さまざまな接辞の用法/その他の前置詞・接続詞/簡単な作文/会話練習/聞き取りの練習/読解</p>			
<p><b>[成績評価の方法]</b>  授業参加度と前期末と後期末の筆記試験の成績を総合して評価。</p>	<p><b>[参考文献]</b>  辞書については授業中に案内する。</p>			
<p><b>[教科書]</b>  柴田紀男(著) 『エクスプレスインドネシア語』 (白水社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																										
異文化間コミュニケーション論		通 期	4 単位	遠 山 淳																										
<p><b>[講義概要・学習目標]</b>  異なる出自文化を持つ者とのコミュニケーションや、異文化同士がコミュニケーションを行う場合に発生する諸問題について講じる。  講義の内容は、異文化間コミュニケーションの諸現象およびそのメカニズムや、情報、文化、コミュニケーションの相関関係、言語とコミュニケーション、歴史とコミュニケーション、などについて講義し、普遍文化と個別文化との関係、地球化時代の価値観・行動様式について考察する。  情報は文化を生成し、文化は人間に対し規範的にかかわる。異文化間コミュニケーションの最大の問題は、実は、異文化よりもむしろ自文化にある。  文化とは、脳内情報の延長物として外在化され脳外に存在するものもあるが、ひっきょう、民族の成員個々の脳内にある共通の記憶の総和である。したがって、文化とは情報の偏在化現象なのである。  さて、諸君は慣れ親しんできた自文化をどこまで乗り越えられるであろうか。</p>	<p><b>[講義計画]</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1 はじめに:異文化間コミュニケーション論とは</td> <td>13 日本のコミュニケーション(1):両立型特性</td> </tr> <tr> <td>2 「文化」とは何か(所相として):静態と動態。</td> <td>14 日本のコミュニケーション(2):宗教史より</td> </tr> <tr> <td>3 自文化中心主義と文化相対主義。相対主義批判。</td> <td>15 日本のコミュニケーション(3):宗教的影響</td> </tr> <tr> <td>4 「文化」とは何か:再考。定義。情報代議理論。</td> <td>16 日本のコミュニケーション(4):時空感覚</td> </tr> <tr> <td>5 コミュニケーションの志向性と型。</td> <td>17 日本のコミュニケーション(5):土着と外来</td> </tr> <tr> <td>6 コミュニケーションの動因と文化型。</td> <td>18 日本のコミュニケーション(6):否定と肯定</td> </tr> <tr> <td>7 文化フィルターとしてのコミュニケーション型</td> <td>19 日本のコミュニケーション(7):「理解」法の比較</td> </tr> <tr> <td>8 言語と文化:サピア・ウォーフの仮説を中心に</td> <td>20 アメリカ的コミュニケーション(1):国民性の形成</td> </tr> <tr> <td>9 コミュニケーション能力と言語能力</td> <td>21 アメリカ的コミュニケーション(2):特殊性と特性</td> </tr> <tr> <td>10 非言語コミュニケーション(1)</td> <td>22 異文化間コミュニケーション(1):循環の法則</td> </tr> <tr> <td>11 非言語コミュニケーション(2)</td> <td>23 異文化間コミュニケーション(2):異なる価値観</td> </tr> <tr> <td>12 コミュニケーションの文化型:片立文化と両立文化</td> <td>24 まとめ:定量的方法と定性的方法:特徴と限界</td> </tr> <tr> <td></td> <td>25 予備日、または試験</td> </tr> </table>				1 はじめに:異文化間コミュニケーション論とは	13 日本のコミュニケーション(1):両立型特性	2 「文化」とは何か(所相として):静態と動態。	14 日本のコミュニケーション(2):宗教史より	3 自文化中心主義と文化相対主義。相対主義批判。	15 日本のコミュニケーション(3):宗教的影響	4 「文化」とは何か:再考。定義。情報代議理論。	16 日本のコミュニケーション(4):時空感覚	5 コミュニケーションの志向性と型。	17 日本のコミュニケーション(5):土着と外来	6 コミュニケーションの動因と文化型。	18 日本のコミュニケーション(6):否定と肯定	7 文化フィルターとしてのコミュニケーション型	19 日本のコミュニケーション(7):「理解」法の比較	8 言語と文化:サピア・ウォーフの仮説を中心に	20 アメリカ的コミュニケーション(1):国民性の形成	9 コミュニケーション能力と言語能力	21 アメリカ的コミュニケーション(2):特殊性と特性	10 非言語コミュニケーション(1)	22 異文化間コミュニケーション(1):循環の法則	11 非言語コミュニケーション(2)	23 異文化間コミュニケーション(2):異なる価値観	12 コミュニケーションの文化型:片立文化と両立文化	24 まとめ:定量的方法と定性的方法:特徴と限界		25 予備日、または試験
1 はじめに:異文化間コミュニケーション論とは	13 日本のコミュニケーション(1):両立型特性																													
2 「文化」とは何か(所相として):静態と動態。	14 日本のコミュニケーション(2):宗教史より																													
3 自文化中心主義と文化相対主義。相対主義批判。	15 日本のコミュニケーション(3):宗教的影響																													
4 「文化」とは何か:再考。定義。情報代議理論。	16 日本のコミュニケーション(4):時空感覚																													
5 コミュニケーションの志向性と型。	17 日本のコミュニケーション(5):土着と外来																													
6 コミュニケーションの動因と文化型。	18 日本のコミュニケーション(6):否定と肯定																													
7 文化フィルターとしてのコミュニケーション型	19 日本のコミュニケーション(7):「理解」法の比較																													
8 言語と文化:サピア・ウォーフの仮説を中心に	20 アメリカ的コミュニケーション(1):国民性の形成																													
9 コミュニケーション能力と言語能力	21 アメリカ的コミュニケーション(2):特殊性と特性																													
10 非言語コミュニケーション(1)	22 異文化間コミュニケーション(1):循環の法則																													
11 非言語コミュニケーション(2)	23 異文化間コミュニケーション(2):異なる価値観																													
12 コミュニケーションの文化型:片立文化と両立文化	24 まとめ:定量的方法と定性的方法:特徴と限界																													
	25 予備日、または試験																													
<p><b>[成績評価の方法]</b>  前期末、学年末筆記試験による。</p>	<p><b>[参考文献]</b>  橋本清弘・石井 敏(編) 遠山 淳 他(共著)「日本人のコミュニケーション」(桐原書店、1993)  古田 暁(編) 石井 敏・岡部朗一・久米昭元(共著)「異文化コミュニケーション」(有斐閣、1987)  祖父江孝男(著)「文化人類学入門 増補改定版」(中公新書、1992)  他は、授業中に発表する。</p>																													
<p><b>[教科書]</b>  遠山淳・他(編・著)『異文化コミュニケーション・ハンドブック』(有斐閣、1998)</p>																														

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語学概論		通 期	4 単位	山 本 雅 代
<b>[講義概要・学習目標]</b> <p>「『言語学』って何をやるものなんですか。国語みたいなものですか」。これは昨年度、開講そうそう、受講生の一人から尋ねられた質問である。なるほど、これまで「言語」と言えば、学生諸君にとっては、「国語」や「英語」などの個別の言語の学習を意味するものだったのであろうから、そういう質問が出て当然であろう。</p> <p>しかし、「言語学」とは、そうした個別言語の能力習得・伸長を図ることを目的とした「言語教育」とは別個のものである。「言語学」とは「『言語とは何か』とか『言語はどのように働くか』という根元的な問いに答えようとする学問である」(エイチソン, 1995: 2-3)。我々にとり、「言語」は最も身近なものの1つでありながら、その正体、またそのメカニズムについて理解の及んでいないところが大きいものである。「言語とは何か、またどのように働くか」という、このとつもない問いを共に考えてみようというのが本講義である。</p>	<b>[講義計画]</b> <p>【前期】言語そのものの分析(単位や構造)を中心とした講義  《テーマ》言語学とは何か、言語の特性、動物と人間言語、音声学、音韻論、形態論、単語、統語論、意味論など</p> <p>【後期】言語とその周辺領域との関連に焦点をあてた講義  《テーマ》語用論、言語の使用、言語と社会、言語の変化、手話、言語の比較、言語と心・脳、言語とコンピュータ、言語相対性・言語普遍性など</p>			
<b>[成績評価の方法]</b> 1) 学習に対する意欲、 2) 質問、意見表明等を通じた授業への積極的参加、 3) 定期試験の結果をもとに総合的に判断する	<b>[参考文献]</b> 中島平三・外池滋生(編著)『言語学への招待』(大修館書店) V. フロムキン・R. ロッドマン(著)／梅田ほか(訳)『言語とは何か』(あぼろん社) S. ピンカー(著)／椋田(訳)『言語を生み出す本能(上・下)』(日本放送出版協会) 風間喜代三ほか(著)『言語学』(東京大学出版会) 小泉保(著)『日本語教師のための言語学入門』(大修館書店)			
<b>[教科書]</b>  後日、指定する				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
応用言語学		通 期	4 単位	橋 内 武
<b>[講義概要・学習目標]</b> <p>応用言語学とは何かについて考えたあと、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語問題の学(言語障害、識字、言語文書など)</li> <li>2. 外国語教育学(教授法、教材・教具論、評価論)</li> <li>3. 学際的言語学(言語学と隣接科学)</li> <li>4. 言語と専門職の研究(通訳・翻訳、言語治療など)</li> </ol> <p>の4つの立場から応用言語学の課題と方法について明らかにしたい。</p> <p>この科目を履修する過程で次第に身近な言語コミュニケーションの問題に関心が高まり、ことばについて多角的に考える習慣が形成されることが学習目的である。</p>	<b>[講義計画]</b> <前期> 第1週～第2週: 序論・応用言語学とは何か 第3週～第7週: 言語問題の学 第4週～第13週: 外国語教育学  <後期> 第1週～第7週: 学際的言語学 第8週～第12週: ことばと専門職 第13週: まとめと復習			
<b>[成績評価の方法]</b>  レポートと年度末試験の結果を勘案して判定する。	<b>[参考文献]</b> Richards, Jack et al. <u>Dictionary of Language Teaching &amp; Applied Linguistics</u> . Longman.			
<b>[教科書]</b>  なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語文化特講 (社会言語学)		通 期	4 単位	橋 内 武
<b>[講義概要・学習目標]</b> 社会との関係でことばのしくみとはたらきについて考えるのが社会言語学である。ことばを自律的な体系として捉える狭義の言語学とは異なり、相互依存の体系として捉えるのが社会言語学の言語観である。それゆえ、社会言語学は学際的傾向もつ。前期には、マクロ社会言語学の中核をなす談話分析 (discourse analysis) の基礎と方法と応用について学ぶ。後期にはそれ以外の分野の基本的事項 (例えば、多言語社会論、言語変異論 (社会方言論とレジスター論) など) を押さえる。究極的には、履修する学生諸君がことばに対する規範的な思い込みから解放されてより視野の広い言語観をもつようになることをもって、本講の学習目的としたい。	<b>[講義計画]</b> 前期 第1週～第3週 ミクロ社会言語学と談話分析の基礎 (対象・方法・目的) 第4週～第10週 談話分析のアプローチ (会話分析・ことばの民族誌など) 第11週～第13週 談話分析の応用 (法言語学・文体論・辞書論・教材論など) 後期 第1週～第4週 マクロ社会言語学の課題としての多言語社会論 第5週～第8週 言語の多様性 ― 社会方言と言語変化 第9週～第12週 言語の多様性 ― レジスターと言語意識 第13週 補選とまとめ			
<b>[成績評価の方法]</b> レポート (前期) と試験 (後期) を総合して最終的な成績評価を与える。	<b>[参考文献]</b> 真田信治、ダニエル・ロング 『社会言語学図集』 秋山書店、1997。 真田信治、渋谷勝己、陣内正敬、杉戸清樹 『社会言語学』 おうふう、1992。			
<b>[教科書]</b> 橋内 武 『ディスコース ― 談話の織りなす世界』 くろしお出版、1999 Homes, Janet <u>An Introduction to Sociolinguistics</u> . Longman, 1992				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本事情研究Ⅱ		通 期	4 単位	岡 村 清 人
<b>[講義概要・学習目標]</b> 日本が、近年飛躍的な発展を遂げている背景に、優れた工業材料の開発がいかに深いかかわりを持っているかについて講義を行う。第二次世界大戦後50年、日本の産業発展に大いに寄与している鉄鋼材料、そして、今日のセラミックス材料や複合材料などの先進材料が、今後の日本および世界の発展にいかに関連しつつあるかについて説明する。さらにこのような発展をもたらしている根源についても追求する。次に、発展に伴って、生活が豊かになり、リスクを負う状況にもなる。例えば環境破壊などである。従って経済発展、資源・エネルギーの確保、地球環境保全のトリレンマの克服が重要な課題である。これらの課題についても言及する。	<b>[講義計画]</b> <前期> 工業材料の発展の柱になっている鉄鋼材料の具体的な説明を行い、それらの明治、大正、昭和、平成における発展プロセス、社会への寄与、そして21世紀における創造的発展の可能性について、日本の教育体制などと関連させて講義を行う。 <後期> 今日の先進材料と呼ばれている半導体材料、セラミックス材料、複合材料などが、工業材料として日本で大いに発展している事情について講義を行う。そして、これらの工業材料の専制的開発が日本の将来の発展にいかなる影響を与えるかについて予測する。またそれらに伴うリスクについても説明する。			
<b>[成績評価の方法]</b> レポート、出席など総合的に考慮して評価する。	<b>[参考文献]</b> 大石 嘉一郎 (編) 『日本産業革命の研究 上・下』 (東京大学出版会) 堂丸 昌男・山本 良一 (編) 久松 敬弘 他共著 『未来社会と材料工学』 (東京大学出版会) H. W. ルイス (著) 宮永 一郎 (訳) 『科学技術のリスク』 (昭和堂)			
<b>[教科書]</b> 講義資料を適宜配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語学概論		通 期	4 単位	有 川 康 二
<b>【講義概要・学習目標】</b> 次の日本語学習者の質問に答えてほしい。「『は』に濁点がつくと『ば』。でも、『な』に濁点の『な』が発音できないのは何故?」「大(おお)+型(かた)=おおがた(連濁あり。×おおかた)なのに、何故、大(おお)+風(かぜ)=おおかぜ(連濁なし。×おおがぜ)なのか。」「『私は田中です』と『私が田中です』はどこがどう違うのか。」 答えられなくても心配御無用。(簡単に解答されてはこのような問題を飯の種にしている人達(=教師)が困ります。)日本人なら誰でも日本語を「使う」ことはできるが、その複雑な仕組みについて原理的に「説明する」ことは出来ない。(脳味噌は誰でも使えるが、脳味噌の中で何が起っているのか説明できないのと同じ。)日本語学を次の三つの視点から概論する。(1)生物言語学の視点=霊長目ヒト科哺乳類の奇形的に腫れあがった脳のニューロン群の働きの一例としての日本語。(2)教育学の視点=日本語を母語としない者が効果的に日本語を習得する為の実用的な説明。(3)哲学の視点=「自分とは何者か」という問いを(暇な時に)考えるための手がかり。	<b>【講義計画】</b> <前期> 1. 文字と音 (e.g. 音素と発音の関係、拍、濁点など) 2. ことばの単位 (e.g. 連濁、形態素、活用など) <後期> 3. 文の成り立ち (e.g. 必須補語 vs. 副次補語、c-command、取り立て助詞「は」、埋め込み文、テンスなど)			
<b>【成績評価の方法】</b> 出席・筆記試験	<b>【参考文献】</b> 野田尚史『はじめての人の日本語文法』(くろしお出版)			
<b>【教科書】</b> 上山あゆみ『はじめての人の言語学-ことばの世界へ』(くろしお出版)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語文法・文体論		通 期	4 単位	有 川 康 二
<b>【講義概要・学習目標】</b> 外国語学習に「おかしい」文はつきものである。(※:おかしい文。) a.*困ったらいつでも私へ来なさい。 b.*私が京都で撮ったの写真 c.*私の父は山田先生を知ります。 d.*先生、私の推薦状はもうお書きになったんですか。(このままでは失礼) 何故おかしいのか。だが、彼らには彼らなりの論理がある。(a)は"come to me"と言うから。(b)は中国語では「我在京都照像的照片」で、「的」という日本語の「の」にあたるものがあるから。(c)は"know"="知る"だから。(d)は尊敬語を使用しているから問題ないはず。教科書として使用する『日本語の文法』には日本語のきまりと仕組みを探るためのおおよそ百題の問いが用意してある。それらの中からポイントとなる問題を解いていく。	<b>【講義計画】</b> <前期> 1. 日本語のきまりと仕組み、2. 文の構成要素とその種類分け、3. 「こと」の類型(述語の種類とその補語との結びつき)、4. 「主語」「主格」「主題」、5. 述語の活用、6. テンス・アスペクト、7. 態(ヴォイス・格と動詞の形との相関)、8. 心的態度(ムード)の表現 <後期> 10. 複文の類型、11. 並列的接続、12. 理由・原因、13. 時の特定、14. 条件の表現、15. 連体修飾			
<b>【成績評価の方法】</b> 出席・筆記試験	<b>【参考文献】</b> 寺村秀夫(著)『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』(くろしお出版) 寺村秀夫(著)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』(くろしお出版) 寺村秀夫(著)『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』(くろしお出版)			
<b>【教科書】</b> 寺村秀夫(著)『日本語の文法(上)』(国立国語研究所(日本語教育指導参考書4)) 寺村秀夫(著)『日本語の文法(下)』(国立国語研究所(日本語教育指導参考書5))				



科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																
語彙・意味論		前 期	2 単位	藤 原 健																
<b>【講義概要・学習目標】</b> <p>ことばによる表現が、単語を一定の文法規則に従って文の形にまとめ上げることであるとすれば、表現にはいくつかの単語が使われていると考えるのが普通であろう。私たちが使っている日本語も、数多くの単語を意味伝達的手段として、それを文や文章、談話の形にまとめ上げているのである。「語彙」とは、このような文章や談話を形成するための要素として用いられる単語の集まりのことであり、言語にとって文法と同等に重要な要素である。</p> <p>この講義では、日常的な平易な用例をもとに、日本語の語彙の意味や構成を分類し、普段使っている日本語の語彙について、いろいろな面から考えてみたい。</p>	<b>【講義計画】</b> <table border="0"> <tr> <td>1. 単語と語彙</td> <td>3. 語の種類</td> </tr> <tr> <td>1) 単語とは</td> <td>4. 語構成と造語法</td> </tr> <tr> <td>2) 語彙とは</td> <td>1) 語の構成成分</td> </tr> <tr> <td>3) 語形</td> <td>2) 造語法</td> </tr> <tr> <td>2. 語の数</td> <td>3) 造語に伴う音声変化</td> </tr> <tr> <td>1) 基礎語彙と基本語彙</td> <td>5. 語の意味</td> </tr> <tr> <td>2) 使用語彙と理解語彙</td> <td>6. 意味に関する問題点</td> </tr> <tr> <td>3) 語数とカバー率</td> <td>7. 語彙教育のポイント</td> </tr> </table>				1. 単語と語彙	3. 語の種類	1) 単語とは	4. 語構成と造語法	2) 語彙とは	1) 語の構成成分	3) 語形	2) 造語法	2. 語の数	3) 造語に伴う音声変化	1) 基礎語彙と基本語彙	5. 語の意味	2) 使用語彙と理解語彙	6. 意味に関する問題点	3) 語数とカバー率	7. 語彙教育のポイント
1. 単語と語彙	3. 語の種類																			
1) 単語とは	4. 語構成と造語法																			
2) 語彙とは	1) 語の構成成分																			
3) 語形	2) 造語法																			
2. 語の数	3) 造語に伴う音声変化																			
1) 基礎語彙と基本語彙	5. 語の意味																			
2) 使用語彙と理解語彙	6. 意味に関する問題点																			
3) 語数とカバー率	7. 語彙教育のポイント																			
<b>【成績評価の方法】</b> <p>定期試験（半期科目であるので、前期1回）により評価する。 くわしくは、授業初回に説明する。</p>	<b>【参考文献】</b> <p>森田良行・村木新次郎・相沢正夫（編）『ケーススタディ・日本語の語彙』（おうふう）</p>																			
<b>【教科書】</b> <p>浅野百合子（著）『教師用日本語教育ハンドブック⑤語彙』（国際交流基金／凡人社）</p>																				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者											
文字・表記論		後 期	2 単位	藤 原 健											
<b>【講義概要・学習目標】</b> <p>言語は、音声を媒体とした音声言語と、文字を媒体とした文字言語とに大別できる。この講義では、これらのうち後者の媒体となっている文字について、日本語の場合を扱う。</p> <p>日本語の表記に用いられる文字は数も種類も多く、また使いかたが複雑である。外国人の日本語学習者にとって、日本語の文字・表記は習得が大変で、ネックになることが多い。この講義では、日本語教育の立場から、実践の場で教師に求められる文字・表記に関する知識と、指導する際に注意しなければならない点などを考えていきたい。</p> <p>1年次に「論述作文」を履修した人も多いと思うが、日本語を「表記する」という点から見つめ直すいい機会になればと思う。学部・専攻に関係なく、日本語に興味・関心のある人の受講を歓迎する。</p>	<b>【講義計画】</b> <table border="0"> <tr> <td>1. 日本語の表記法と基準</td> </tr> <tr> <td>1) 漢字の表記法（「常用漢字表」）</td> </tr> <tr> <td>2) 平仮名の表記法（「改定現代仮名遣い」）</td> </tr> <tr> <td>3) 片仮名の表記法（「外来語の表記」）</td> </tr> <tr> <td>4) 送り仮名の付け形</td> </tr> <tr> <td>5) ローマ字の種類と表記法</td> </tr> <tr> <td>2. 文字に関する知識</td> </tr> <tr> <td>1) 漢字（の成り立ち）</td> </tr> <tr> <td>（六書、部首、画数、字形等）</td> </tr> <tr> <td>2) 仮名（の成り立ち）</td> </tr> <tr> <td>（真名、平仮名、片仮名等）</td> </tr> </table>				1. 日本語の表記法と基準	1) 漢字の表記法（「常用漢字表」）	2) 平仮名の表記法（「改定現代仮名遣い」）	3) 片仮名の表記法（「外来語の表記」）	4) 送り仮名の付け形	5) ローマ字の種類と表記法	2. 文字に関する知識	1) 漢字（の成り立ち）	（六書、部首、画数、字形等）	2) 仮名（の成り立ち）	（真名、平仮名、片仮名等）
1. 日本語の表記法と基準															
1) 漢字の表記法（「常用漢字表」）															
2) 平仮名の表記法（「改定現代仮名遣い」）															
3) 片仮名の表記法（「外来語の表記」）															
4) 送り仮名の付け形															
5) ローマ字の種類と表記法															
2. 文字に関する知識															
1) 漢字（の成り立ち）															
（六書、部首、画数、字形等）															
2) 仮名（の成り立ち）															
（真名、平仮名、片仮名等）															
<b>【成績評価の方法】</b> <p>定期試験（半期科目であるので、後期1回）により評価する。 くわしくは、授業初回に説明する。</p>	<b>【参考文献】</b> <p>国立国語研究所（編）『日本語教育指導参考書14 文字・表記の教育』（大蔵省印刷局）</p>														
<b>【教科書】</b> <p>富田隆行・真田和子（共著）『教師用日本語教育ハンドブック⑥新・表記』（国際交流基金／凡人社）</p>															

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語Ⅲ		通 期	4 単位	藤 原 健
<b>【講義概要・学習目標】</b> 大学に入って2年が経ち、留学生として日本語の実力不足を自分たち自身が ちばん痛感しているのではないだろうか。 日本語の能力が不十分なまま大学に入り、その後、日本語の能力は伸びず、む しろ専門の科目の勉強などに忙しく、日本語そのものの勉強まで手が回らなくな っているのが現状ではないかと思う。さらに、テキストなどに出てくる日本語と、 実際回りで見聞きする日本語の差に驚いているのではないだろうか。実際、日本 人はあのような日本語の語彙や表現を、日本語学校の先生たちのような発音で口 にすることはないのである。 この授業では、レベルは低めにし、1年次に「日本語Ⅰ」で使用した教材 『インタビューで学ぶ日本語』を使用して、 <u>普通の日本人の日本語を聞き取る練</u> <u>習</u> をする。この授業では、1年次の続きから行う。	<b>【講義計画】</b> 1. 作成された教材でない対話のテープを聞く ・会話の大意をつかむ ・タスクシートの問いに従い、聞き直す ・設問に答える ・対話のストラテジーなどについて考える ・スクリプトを見ながらもう一度聞く 2. 会話の内容について話し合う ・タスクシートの設問を利用する			
<b>【成績評価の方法】</b> 出席を重視し、評価は年2回の定期試験で行う。 くわしくは、授業初回に説明する。	<b>【参考文献】</b> 堀歌子・三井豊子・森松映子（共著）『インタビューで学ぶ日本語』（凡人社）			
<b>【教科書】</b>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教 育 社 会 学		通 期	4 単位	宮 崎 和 夫
<b>【講義概要・学習目標】</b> 教育社会学は、教育と社会の関係を社会学の方法で研究する科学である。 教育の問題は、今や学校のみならず家庭や地域社会など広範囲で大きな社会問 題になっていることが多い。 本講義では、現代社会の特質からくる教育の諸問題を積極的に取り扱う。 たとえば、学歴社会問題、受験戦争問題、家庭や地域社会の教育力の低下問題 等と非行や逸脱行為、少年犯罪との関連、いじめや不登校問題、若者文化と流 行、マンガ文化やTV文化の教育への影響問題などいろいろな教育問題と学校 組織の構造的な問題点との関連を具体的多面的に考察する。 その中で、教育と現代社会の特質との関連を分析する社会学的視点を論究す るとともに、現代教育が抱えている諸問題を実証科学的に分析し考察する。	<b>【講義計画】</b> 〈前期〉 1. 現代社会の特質と教育 2. 情報化社会と教育 3. 国際化社会と教育 4. 少子高齢社会と教育 5. 学歴社会と教育 6. 管理社会と教育 7. 学習社会と生涯教育 〈後期〉 8. 人権問題と教育 9. 学力保障と教育機会 10. ジェンダーと教育 11. 社会階層と教育 12. 学校の官僚制と教師集団 13. 社会変動と教育改革			
<b>【成績評価の方法】</b> 学年末試験の成績と年間回数提出してもらったレポートなどを総合して評価 する。	<b>【参考文献】</b> 1. 宮崎和夫（編著）「生徒指導の理論と実践」（学文社） 2. 宮崎和夫（編著）「現代教育原理」（創森社） 3. 麻生 誠他著「学校の社会学」（学文社）			
<b>【教科書】</b> 宮崎和夫（編著）「社会と教育への視点」（創森社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育哲学		後 期	2 単位	徳 永 正 直
<b>[講義概要・学習目標]</b>  ドイツの代表的な教育哲学者であるボルノー（O.F.Bollnow）の思想を中心にして次のような問題を解説したい。①実存哲学と教育学との関係を考察した際に提示された「教育の非連続的形式」と、日常的な連続性が大切にされねばならない「練習」や「修練」の問題との関係。②哲学的人間学の方法と言語の人間学的意義。対話による対話への教育とは何か。③教育者の課題と教員養成のあり方。 ボルノー教育学を通して、教育哲学の基本的な問題の理解を目指す。	<b>[講義計画]</b>  § 1. 教育哲学とは何か § 2. 実存哲学と教育学 ①ハイデッガー、ヤスパーズ、ブーバーの人間存在論 ②実存に対応する「教育の非連続的形式」危機、出会い、覚醒、訓戒などの人間形成論的意義 ③教育の連続性と「練習」ないし「修練」の人間学的意義 § 3. 言語の人間形成論的意義 ①言語による世界把握 ②言語による自己理解 ③言語の危険性 ④言語によるコミュニケーションの諸形式 ④対話による対話への教育 § 4. 教育者の徳と教員養成の課題			
<b>[成績評価の方法]</b>  レポート作品と平常点によって評価する。	<b>[参考文献]</b>  講義の中でそのつど指示する。			
<b>[教科書]</b>  使用しない。適宜、史料プリントを用意するが、授業時しか配布しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育史		後期	2 単位	竹 中 暉 雄
<b>[講義概要・学習目標]</b>  近代日本の経済的発展の背景には、教育制度の整備が存在していた。しかしそのことも前史を抜きにしては考えられない。江戸時代における教育・学問の発達、どのように封建制度を揺るがすことになっていったのかをまず確認したい。 けれども近代以降の学校教師には、表面的には敬われながら、陰で軽蔑されたりする二面性があった。それはどうしてなのだろうか。近代学校の発展が、一面では天皇の忠良な臣民を生み出し、他国侵略の先兵を用意する結果を招いたからでもある。この講義ではどうしても近代教育の負の面を強調してしまうことになるが、それは言うまでもなく、そのことを意識することによって、2度と再び学校教育がそのような役割を背負わされることがないようにと願うからである。少しばかりの不安を抱きながらも、それよりもはるかに大きな期待を胸に小学校に入学した学生がほとんどであろう。学校とはもともと、私たちの夢を表現してくれる期待の場所ではなければならない。 本講義は毎回トピック的に進めるため「体系的」な授業とはなりにくいことを了解願いたい。第11、12のところでは時間を工夫して、映画「二十四の瞳」を見る予定である。	<b>[講義計画]</b>  江戸時代の教育と学問 1 儒教・朱子学の影響と日本的「忠孝」 2 さまざまな学校、私塾の発達 3 教育・学問の発達と封建制度の崩壊 近代教育制度の発達 4 「学制」頒布 5 教育勅語と天皇制教育 6 義務教育と沖縄牝牛窃盗事件 7 体罰の禁止と容認 8 公権力行使としての教育 9 哲学館事件と教科書事件 10 大正自由教育の展開と限界 11 軍国主義と教育 12 戦時下の教育			
<b>[成績評価の方法]</b>  数回の授業コメントカードと学期末論述試験による。	<b>[参考文献]</b>  山住正己『日本教育小史』岩波新書 竹中暉雄『囲われた学校=1900年』勁草書房			
<b>[教科書]</b>  使用しない。適宜、史料プリントを用意するが、授業時しか配布しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育行政学		後期	2単位	竹中暉雄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>教育行政とは、国または地方公共団体が、法令に基づいた教育目的を実現するために、法令に基づいて学校等の施設を設置し、教職員を任用し、それらを管理・運営・援助する行政行為の総称であり、制度的な教育を運営していくために不可欠の作用である。</p> <p>しかしもともと教育とは個人的・私的な事柄であるから、そこに画一的で命令的にならざるをえない行政作用が介入してくると、さまざまな問題や矛盾が発生することになる。</p> <p>教科書検定や学習指導要領の問題がその典型であるが、この授業ではそれ以外にも日常的に起こってくるさまざまな問題を取りあげ、受講生にも自分の考えを法令上の根拠を示しながら発表してもらうことにする。</p> <p>子どもの「教育を受ける権利」を保障するための教育行政という視点から、教育行政について考えてみたい。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育行政の基本理念</li> <li>2 文部省と教育委員会</li> <li>3 教育行政の目標               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育の機会均等</li> <li>(2) 教育の中立性</li> </ol> </li> <li>4 教育内容行政               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学習指導要領</li> <li>(2) 教科書検定</li> </ol> </li> <li>5 親の教育行政・学校管理への参加</li> <li>6 事例研究（演習）</li> <li>7 事例研究（演習）</li> <li>8 事例研究（演習）</li> </ol>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業への参加度および学期末試験による。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>兼子仁・永井憲一・平原春好編『教育行政と教育法の理論』東京大学出版会          村山英雄・高木英明編『教育行政要説』ぎょうせい          鈴木英一・川口彰義・近藤正春編『教育と教育行政』勁草書房          平原春好編『教育と教育基本法』勁草書房          市川昭午『教育行政の理論と構造』教育開発研究所</p>		
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育法規		前期	2単位	竹中暉雄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>制度としての学校教育や社会教育の運用のためには、どうしても各種の法規が不可欠で、それなしには全く動かない。公教育は、さまざまな法令に守られながら、同時に拘束されながら行なわれている。したがって教員や関係者はそのことについての十分な知識と認識が必要となる。そうでないと、たとえ「良かれ」と判断して善意で行なったことでも、違法な行為になってしまうこともあり得る。</p> <p>法規というものはある特定の目的や状況を想定して制定されるのであるが、ところがいったん制定されると、そのあとで必ず「このような場合にはどう考えればいいのか？」といった判断に迷う事例が生まれてくる。そこで法令の解釈が必要となってくる。</p> <p>法令ごとに逐条的に解説するというだけでは極めて無味乾燥となるので、演習形式も取り入れる。例えば「教科書をまったく使わずに授業をすることは許されているか」「特定の生徒のために教師の自宅で補習授業をすることは可能か」など数多くの問題事例を用意しておくので、受講生は自分に割り当てられた問題に対する自分の考えを、法令上の根拠を示しながら発表することになる。授業実習のつもりで受講してほしい。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育法規の体系と種類</li> <li>2 教育基本法</li> <li>3 学校教育法、事例研究（演習）</li> <li>4 教育公務員特例法、事例研究（演習）</li> <li>5 地方教育行政の組織及び運営に関する法律、事例研究（演習）</li> <li>6 学校保健法、事例研究（演習）</li> <li>7 学校給食法、事例研究（演習）</li> <li>8 私立学校法、事例研究（演習）</li> <li>9 義務教育費国庫負担法、事例研究（演習）</li> <li>10 事例研究（演習）</li> <li>11 事例研究（演習）</li> <li>12 事例研究（演習）</li> </ol>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業への参加度および学期末試験による。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>『教育小六法』</p>		
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。</p>		<p>下村哲夫編『教育法規セミナー（1～5）』第一法規          兼子仁・永井憲一・平原春好編『教育行政と教育法の理論』東京大学出版会          平原春好編『教育と教育基本法』勁草書房          下村哲夫『学校法規の事例研究』学事出版          菱村幸彦・下村哲夫編『教育の眼・法律の眼（Ⅰ・Ⅱ）』教育開発研究所</p>		

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代健康論		通 期	4 単位	< 前 期 > 高橋ひとみ < 後 期 > 永谷峯男
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>今日、大不況といわれる日本にもかかわらず、私たちは「豊かさの時代」にドブブリと浸かっている。清潔さは群を抜き、電化・モーターゼーション化が進み、飢えに苦しむ国々をしり目に「飽食の時代」といわれて久しい。</p> <p>しかし、最近ではダイオキシンや環境ホルモン問題から、生活習慣病（成人病）の歩ける距離でも車、会って話すより携帯電話、階段よりエスカレーター、食べるのはレトルト、子供から大人までのストレスや心の健康問題と、いとまがない。便利さが一番の、この世界の長寿国は、どこへいくのか。</p> <p>生命体としてのヒトが、生きる、そしてよりよく生き抜くための基本として求めるものが「健康」であろう。そして、人も社会も環境も健康でなければならぬと考えるのは当然である。現実には、完全な「健康」はあり得ない。しかし、より良い方向を見い出さなければならない。</p> <p>この講義では、からだの働きから、ライフスタイル、心の健康、体力と体力づくり、運動と栄養と休養、住・衣服を含む生活環境と健康管理、健康行政、自然環境、そして基本となる健康の哲学的概念まで広く学生諸君と学習し、その問題点と方向性を考察したい。</p>	<p>前期（高橋）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康の概念</li> <li>2. 健康管理システム</li> <li>3. 健康の意義</li> <li>4. ライフサイエンス</li> <li>5. 心身の発育と発達</li> <li>6. 年代と体育・スポーツ</li> </ol> <p>後期（永谷）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・からだは健康的にはたらく</li> <li>・生体リズムと現代人の生活</li> <li>・ストレス社会と心の健康</li> <li>・環境問題と健康</li> <li>・からだは動かすためにある</li> <li>・動かさなかったらどうなるか</li> <li>・体力と体力づくり</li> <li>・くすり・薬害・自然治癒</li> <li>・健康とは</li> </ul>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
前期試験・後期試験および小テストなどにより成績評価する。				
[教科書]				
前期 「健康科学概論」 緒方正名編著 朝倉書店				
後期 指定しない。必要に応じプリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スポーツ文化論		通 期	4 単位	松 浦 道 夫
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>まず、現代社会の特徴と体育・スポーツの発展、関係を概観します。そして背景の思想・精神・文化を知り、スポーツとの関連を考察します。とくに日米英の文化をスポーツを通して比較してみます。いいかえれば、スポーツ文化論を通して、集団としての人間、社会を理解することをねらっています。</p>	<p>&lt;前期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代の体育・スポーツ</li> <li>2. 近代イギリススポーツと社交の精神</li> <li>3. イギリスのギャンブル精神とスポーツ</li> </ol> <p>&lt;後期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. アメリカスポーツとメンバーチェンジの思想</li> <li>5. 近代日本のスポーツと勝敗感</li> <li>6. 国際化と日本的スポーツの変化</li> </ol>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
適宜エッセイを課し、学年末テストと合わせて評価します。ただし、受講生が多い場合は変更することもあります。	授業の進行に合わせて知らせます。			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
運動生理学		通 期	4 単位	松 浦 道 夫
<b>[講義概要・学習目標]</b>  まず、解剖学の基本的知識の上に、生理学的諸法則を学びます。次いで、運動生理学の基礎を知ってもらいます。文科大学では、体育・スポーツ系以外で人間の生命現象を解明する科目はほとんどありません。ですから、社会や自然を理解する以上に、人体を通して人間を理解することも大切だと思います。少し難解かも知れませんが、運動生理学を学んで、個としての人間を理解して下さい。そして、それによって、現代社会を積極的にたくましく、よりよく生きるために応用して下さい。なお、この科目は、体育・スポーツ系のみならず、心理学・公衆衛生学・情報理論などの基礎分野でもあります。		<b>[講義計画]</b> <前期> 1. 細胞の意味と役割 2. 細胞の活性化と運動 3. 骨の構造と機能 4. 運動と骨 5. 筋の構造と機能 6. 運動と筋 7. 運動の持続時間とエネルギーの供給 <後期> 8. 神経系の構成と機能 9. 運動と情報伝達 10. 脳と感情発現 11. 自律神経とホルモン 12. 現代人の生活と健康 13. 運動と全身持久力 14. 血液の成分と役割		
<b>[成績評価の方法]</b>  適宜、受講生にエッセイを課し、最終講義日のテストと合わせて評価します。		<b>[参考文献]</b>  授業の進行に合わせて知らせます。		
<b>[教科書]</b>  資料をプリント配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スポーツ科学		通 期	4 単位	<前期> 今西 俊次 <後期> 高 成廈
<b>[講義概要・学習目標]</b>  スポーツ科学は人間そのものをあつかう総合科学であり、近年この分野の研究には著しいものがある。その成果は、たんに「強く・速く・高く」という一握りのトップアスリートだけのものではない。健常者にとっては勿論のこと障害者や中・高齢者にとっても有効である。 本講義では、スポーツが体力に与える影響と体力がスポーツに与える影響を考察し、合理的なトレーニングの方法について理解を深める。また、健康・体力の維持・向上を願うすべての人々にとってスポーツの新たな可能性を再発見してもらいたい。		<b>[講義計画]</b>  前期、第1回目の授業で説明します。  後期、第1回目の授業で説明します。		
<b>[成績評価の方法]</b>  レポートと前・後期テストを合せ、総合的に評価する。		<b>[参考文献]</b>		
<b>[教科書]</b>  資料をプリント配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
近代体育・スポーツ史		通 期	4 単位	高 橋 ひ と み
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>現代社会において重要な生活文化として取り入れられているスポーツの歴史を、政治や経済・社会環境との関連からみていく。</p> <p>特に、ルネッサンス以後の「近代」を中心として、それぞれの時代や国の情勢・思想を背景に学んでいくことにより、今後、様々な様相を呈すると予想される「体育・スポーツ」の国際的動向を展望する上での基礎的な知識を得ることを目標とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期：ビデオを中心に古代・中世・近世の概要をつかむ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 古代の体育・スポーツ エジプト・ギリシャ・ローマ</li> <li>2. 中世の体育・スポーツ</li> <li>3. ルネッサンス時代の体育・スポーツ</li> </ol> <p>後期： 4. 近代の体育・スポーツ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ドイツ</li> <li>②イギリス</li> <li>③スウェーデン</li> <li>④フランス</li> <li>⑤アメリカ</li> </ol> <p>5. 日本の近代体育とスポーツ</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験およびビデオ鑑賞のコメントなどにより評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>高橋ひとみ（編著） 「近代体育・スポーツ史」 西日本法規出版</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育・心理学特講（不登校といじめ問題）		後期	2 単位	林 陸雄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>今日の三大教育問題は、不登校、いじめ、非行といわれている。不登校は98年に10万人を越えた、と文部省は報告している。さらに、学級崩壊といった現象も現れ、教育の根幹を大いに揺るがしている。教師も親もお手上げといった状態もみかけられる。</p> <p>ビデオ等の資料を手がかりに、不登校・いじめについて問い直し、子ども達とどのように向かい合うのか、その視点と姿勢について検討する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 思春期が直面する諸問題 1</li> <li>2. 思春期が直面する諸問題 2</li> <li>3. 思春期が直面する諸問題 3</li> <li>4. 不登校とは 1</li> <li>5. 不登校とは 2</li> <li>6. 不登校とは 3</li> <li>7. いじめとは 1</li> <li>8. いじめとは 2</li> <li>9. いじめとは 3</li> <li>10. 発達と成長、その援助の在り方 1</li> <li>11. 発達と成長、その援助の在り方 2</li> <li>12. 発達と成長、その援助の在り方 3</li> </ol>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席回数、授業内の小レポート、期末考査の結果を総合して行う。但し、2/3以上の出席がなければ評価しない。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業内で、適宜紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
図書館通論		前 期	2 単位	志保田 務
<b>[講義概要・学習目標]</b> 図書館、図書館情報学のおおよそについて平易に解説する。まずは図書館は何をすることかを確認し、図書館の果たす役割について考える。そこで情報と図書館の関係、社会と図書館の関係、生涯学習社会について検討する。次に図書館を構成する要素を確認する。図書館の要素は、図書→資料→情報、館（建物）→図書館システム、図書館員→司書（専門職員）→利用者（市民）の4点に分かれるが、本講義では、利用者（市民）および図書館システムに焦点をおく。そこででは「寄附サービスが対象となる、各種」館種。ここでは公共図書館を中心に論じる。まためとして「図書館の自由」と図書館経営について論じ、図書館世界の将来、電子図書館やバーチャルグラフィについて検討する。 図書館を構成する要素のうち最も特徴的な要素、図書館資料について講義する。図書を中心に、各種の資料について検討する。	<b>[講義計画]</b> 1. 図書館とはなにか 2. 図書館の果たす役割 3. 情報の伝達と図書館 4. 社会、生涯学習と図書館 5. 図書館の構成要素 6. 図書館の種類（館種） 7. 公共図書館：理念 8. 公共図書館の歴史と現代 9. 公共図書館の利用者 10. 図書館の自由 11. 図書館経営 12. まとめ			
<b>[成績評価の方法]</b> テスト80% レポート 20%		<b>[参考文献]</b> 藤野幸雄 [ほか] 編『図書館情報学入門』（有斐閣 1996）		
<b>[教科書]</b> 志保田務編著『図書館概論』（樹村房 1998）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
図書館資料論		後 期	2 単位	志保田 務
<b>[講義概要・学習目標]</b> 図書館を構成する要素のうち、最も特徴的な要素、図書館資料について講義する。図書を中心に、各種の資料について検討する。特に資料の電子化に注目する。電子ブック、電子図書館、インターネット等に言及する。		<b>[講義計画]</b> 1. 図書館資料論 2. 図書館資料の種類 3. 資料の生産と流通 4. 資料の選択 5. 資料選択論 6. 図書館の自由 7. 電子資料、電子情報 8. ネットワーク 9. インターネット 10. 著作権 11. 公貸権 12. まとめ		
<b>[成績評価の方法]</b> テスト80% 課題 20%		<b>[参考文献]</b> 志保田務編著『情報機器論・特論：ITの活用Ⅱ（第一法規）		
<b>[教科書]</b> [教科書] 志保田務編著『図書館概論』（樹村房）				



科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
図書及び図書館の歴史		後 期	2 単位	志保田 務
<b>【講義概要・学習目標】</b> 図書及び図書館の上を流れた歴史を確かめる。歴史を見るには観点の設定が欠かせない。それぞれの時代の図書、図書館が誰の者であったか、何のために造られたのか。こうした点に留意する。 とくに近代図書館の成立を、図書館の大衆化及び生涯学習施設化の実現とらえ掘り下げる。	<b>【講義計画】</b> 1. 文献史、情報史、学習史、出版史、図書館史 12. まとめ 2. 古い時代の図書館1 アジア、アフリカ 3. 同 エジプト 4. 同 ギリシア、アレクサンドリア 5. 修道院図書館 6. 大学図書館 7. 人文主義と図書館 8. 宗教改革と図書館 9. 産業化社会と図書館 10. 市民社会と図書館 11. 日本の図書館			
<b>【成績評価の方法】</b> テスト80% レポート 20%	<b>【参考文献】</b>			
<b>【教科書】</b> 『図書館：その本質、歴史、思潮』改訂版 (丸善)				

<97・98生対象>

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
児童サービス論		前 期	2 単位	清 水 昭 治
<b>【講義概要・学習目標】</b> 公共図書館とは、普通、いわゆる一般用(大人用)と子供用とに部屋又はコーナーを分けて本を配置しています。従って、大体、中学生手前を対象にし、絵本から幼児、幼稚園児、小学生、中学生までの幅広い子供用の本を並べています。そして、公共図書館の全貸出冊数の相当部分をここの子供の本が占めています。この講義では、主に、公共図書館の児童サービスを中心として、学校図書館、家庭や地域の文庫活動なども対象にし、又大人と児童との中間地帯のいわゆるヤングアダルトと呼ばれる中学生や高校生ほどの図書館とのかわりも考えます。おもしろい出版家としての子供用の本を実際に授業の中で楽しみながら講義をすすめます。生涯教育が叫ばれる中、図書館の役割は、今後、ますます増大します。その時、図書館利用が習慣化されることは、大きな意味を持ちます。その習慣化の第一歩が児童サービスです。その第一歩の大切さを学びます。	<b>【講義計画】</b> 講義と共に、見本的に、実際に、子供の本を紹介しながら、又、「読みまかせ」などを通して、子供の本の楽しさを伝えたい。 又、スライドなどを利用して、見本的な子供の図書館の姿を学びたい。			
<b>【成績評価の方法】</b> レポート、又は、学年末試験に加えて、出席状況や平常成績とで、総合評価したい。	<b>【参考文献】</b> 参考文献は、講義の中でお知らせしますが、まずは、文献よりも、実際の児童図書館を体験しておいてください。はじめは、少し、躊躇しますが、一度、体験すれば大人用の図書館と同じように利用出来ることと思います。			
<b>【教科書】</b>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
専門資料論		前期	2単位	松永 俊男
[講義概要・学習目標] 人文科学、社会科学、自然科学の各分野の学問としての特徴、および各分野の文献の特徴と種類について解説する。		[講義計画] 1. 学術文献とはなにか 2. 分野の特徴と学術文献 3. 学術雑誌の特徴 4. 学術文献の歴史 5. 雑誌 <u>nature</u> について 6. 学術における不正 7. 百科辞典について-1- 8. 百科辞典について-2- 9. 百科辞典について-3- 10. 人文科学・社会科学の二次資料 11. 科学技術の二次資料 12. テスト		
[成績評価の方法] 平常点と最終テストを総合して評価する。		[参考文献]		
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
生涯学習概論	01 02	前 期 後 期	2単位 2単位	伊 藤 正 純
[講義概要・学習目標] 1960年代以降、ユネスコ等の国際機関で生涯教育・生涯学習の必要性が叫ばれてきたのは、先進国では、急速な技術革新および長寿社会によって成人の学習機会の保障が不可欠になってきたからであり、後進国では、子どもの学習機会を保障するためにも大人の学習（→学習による貧困からの脱出）が不可欠だったからである。本講義では、このような国際的な動向に加えて、生涯学習の先進国であるスウェーデンでの成人教育の諸制度（特に教育休暇制度と成人教育奨学金制度および学習サークル）を紹介し、それとの対比で文部省が推進しようとしている日本の「生涯学習社会」建設の意義と限界を考えてみたい。なお、日本でも自治体レベルで、旧来の社会教育（図書館・博物館・公民館での活動）を包摂した様々な生涯学習推進事業が展開されるようになってきているので、その例を2、3紹介するつもりである。		[講義計画] 1. 生涯学習とは何か ユネスコの生涯教育論、OECDのリカレント教育論 2. 生涯学習の国・スウェーデンでの実験 コミュニケーション成人教育、国民高等学校 高い成人学生の割合、学生ローン制度 教育休暇制度、成人教育奨学金制度、学習サークル 3. 日本の生涯学習の特異性 生涯学習振興法と「生涯学習」の実情 高等教育における生涯学習の推進状況 4. 地方自治体の取り組み		
[成績評価の方法] 司書および学芸員資格取得科目であるので、出席重視・授業中の感想文重視で評価する。定期試験を実施するかどうかは未定。なお、20分を超えた遅刻は認めない（入室禁止措置をとる）。		[参考文献] 1. 黒沢惟昭編『苦悩する先進国の生涯学習』社会評論社 2. 赤尾勝己『生涯学習概論』関西大学出版部 3. 朝倉征夫監修『私たちの生涯学習研究』学芸図書株式会社 4. 桃山学院大学教育研究所『和泉市民の生涯学習に関する意識調査報告書』		
[教科書] 使用しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
図書館サービス論		前 期	2 単位	西田文男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>利用者と直接関わる図書館サービスの意義、特質、方法について解説するとともに、各種サービスの特質を明らかにする。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 図書館サービスの概念と意義</li> <li>2. 図書館サービスの計画と評価</li> <li>3. 図書館活動の発展</li> <li>4. 図書館サービスの現状と課題</li> <li>5. 図書館づくりの施策と運動</li> </ol>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験の成績によって評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>その都度指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>塩見 昇「図書館サービス論」 教育史料出版会</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
資料特論		後期	2 単位	松永 俊男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>行政資料、郷土資料、および視聴覚資料に注目し、それぞれの特徴、収集、利用等について解説する。それぞれの専門の研究者によって講義が行われる。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. 行政資料について(1)</li> <li>3. 行政資料について(2)</li> <li>4. 情報公開制度について(1)</li> <li>5. 情報公開制度について(2)</li> <li>6. CD-ROMとインターネットの実習</li> <li>7. 視聴覚資料について(1)</li> <li>8. 視聴覚資料について(2)</li> <li>9. 郷土資料について(1)</li> <li>10. 郷土資料について(2)</li> <li>11. まとめ</li> </ol>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講師それぞれの評価（テストまたはレポート）を総合して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ													
図書館特論		後 期	2 単位	志保田 務													
<p><b>【講義概要・学習目標】</b>                      現代社会は、情報化、コンピュータ化のただ中にある。オンライン、オンデスクのデータベースは図書館にとって常識化している。データベースに関する知識と、その扱いについてここでは学ぶ。さらに検索の専門家サーチャーへの登竜門となる情報検索基礎能力試験をも目指す。                      各分野の専門家によるインテグレーション授業とし、大半はA館のコンピュータ演習室を使用する。                      この授業の受講を始めるには、第1回講義までに、次の条件を満たしておくこと。                      1 E-MAIL Addressを取得しておくこと（学内LANのそれより）                      2 パソコンキーボードの操作、入力ができること。</p>	<p><b>【講義計画】</b></p> <table border="1"> <tr><td>内容</td></tr> <tr><td>1 ガイダンス、情報化社会</td></tr> <tr><td>2 情報とデータベース(データベースの構造、主題分析とキーワード)</td></tr> <tr><td>3 データベース検索入門(検索式、コマンド)</td></tr> <tr><td>4 情報機器とネットワーク</td></tr> <tr><td>5 データベース検索演習1(ビジネスとネットワーク)</td></tr> <tr><td>6 データベース検索演習2(科学技術)</td></tr> <tr><td>7 データベース検索演習3(特許)</td></tr> <tr><td>8 データベース検索演習4(ライフサイエンス)</td></tr> <tr><td>9 データベース検索実習1(DIALOG JOIS)</td></tr> <tr><td>10 データベース検索実習2(DIALOG JOIS)</td></tr> <tr><td>11 データベースと英語</td></tr> <tr><td>12 データベース検索結果の加工と評価</td></tr> </table>				内容	1 ガイダンス、情報化社会	2 情報とデータベース(データベースの構造、主題分析とキーワード)	3 データベース検索入門(検索式、コマンド)	4 情報機器とネットワーク	5 データベース検索演習1(ビジネスとネットワーク)	6 データベース検索演習2(科学技術)	7 データベース検索演習3(特許)	8 データベース検索演習4(ライフサイエンス)	9 データベース検索実習1(DIALOG JOIS)	10 データベース検索実習2(DIALOG JOIS)	11 データベースと英語	12 データベース検索結果の加工と評価
内容																	
1 ガイダンス、情報化社会																	
2 情報とデータベース(データベースの構造、主題分析とキーワード)																	
3 データベース検索入門(検索式、コマンド)																	
4 情報機器とネットワーク																	
5 データベース検索演習1(ビジネスとネットワーク)																	
6 データベース検索演習2(科学技術)																	
7 データベース検索演習3(特許)																	
8 データベース検索演習4(ライフサイエンス)																	
9 データベース検索実習1(DIALOG JOIS)																	
10 データベース検索実習2(DIALOG JOIS)																	
11 データベースと英語																	
12 データベース検索結果の加工と評価																	
<p><b>【成績評価の方法】</b>                      テスト70% 課題 20%                      出席 10%</p>	<p><b>【参考文献】</b>                      志保田務編著『情報機器論・特論: 17の活用』(第一法規)                      『情報検索の基礎』第2版 (情報科学技術協会)                      『最新オンライン情報源活用法』(日外アソシエーツ)</p>																
<p><b>【教科書】</b>                      『情報管理入門』第5版 (情報科学技術協会)</p>																	

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
博物館概論		後期	2 単位	種 田 明
<p><b>【講義概要・学習目標】</b>                      博物館とは何か、その社会的基盤や法的地位、教育的機能などを総合的に講義する。(毎回VTRを使用する。)日本の博物館の開館数は、1998年も約300館近くに上り、規模やテーマの各種各様の博物館が誕生している。これらの博物館が、研究者のみならず多くの人々に親しまれ活用されるためには、博物館に関する基礎的知識の習得が望まれよう。                      博物館法に基づく「学芸員」を志す諸君は、博物館の歴史と現状・博物館における人とのふれ合い(博物館法にいうリクリエーション、社会教育法にいう生涯学習)・博物館のコンセプトや法律などを十分にわきまえ、博物館について楽しみながら学んでほしい。                      なお、本学では博物館概論と博物館学各論(4)の2科目6単位を履修し、合格しなければ「博物館実習(3)」の登録はできない。(自由科目としての受講者は、最初に申し出てください。)</p>	<p><b>【講義計画】</b>                      各回45分「放送大学」のVTRをみて、テーマに関連した講義・解説を行う。新聞・雑誌などからの記事のコピーも交え、博物館の本質について討議できれば、問題の所在が明らかになるであろう。</p>			
<p><b>【成績評価の方法】</b>                      博物館見学レポート 2回 (30%)                      試験&lt;最終講義日&gt; (60%)                      出席 (10%) : 欠席5回は受験資格なし</p>	<p><b>【参考文献】</b>                      講義中に提示する。</p>			
<p><b>【教科書】</b>                      大塚知義『改訂版 博物館学I』放送大学教育振興会、1994年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
博物館学各論		通 期	4 単位	水 口 薫
<b>【講義概要・学習目標】</b> 近年ミュージアム・マネージメントという研究活動領域が拡大している。生涯学習の必要性和相まって博物館への関心は高く、博物館でも教育・福祉・援助・環境保護などあらゆることにマネージメント感覚が求められている。 本講義では「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館情報論」を内容とする。 博物館機能の構成要因の一つである博物館経営、博物館資料の収集・保管・展示等についての基礎知識の習得、調査・研究、教育普及活動および情報の意義と活用方法についての理解を図る。	<b>【講義計画】</b> (前期)「博物館経営論」 1 博物館の機能、組織、施設の基本的な考え方 2 ミュージアム・マネージメント、教育普及活動 「博物館資料論」 1 博物館資料の概念、収集、整理、保管、記録化 2 博物館資料の保存、展示（常設展示、企画展示） (後期) 3 資料調査、研究活動の意義と方法、基礎知識 「博物館情報論」 1 博物館における情報の意義、提供について 2 教育普及、情報、インターネットの活用方法			
<b>【成績評価の方法】</b> 出席を兼ねた小テスト（適時）とレポート、定期試験にて総合評価。前・後期とも欠席6回の者は名簿抹消。	<b>【参考文献】</b> 適時、プリントを配布。 その他、講義のときに提示する。			
<b>【教科書】</b> 大堀 哲・小林達雄・端 信行・諸岡博熊（編） 『ミュージアム・マネージメント 博物館運営の方法と実践』 （東京堂出版 1996年） 加藤有次・椎名仙卓（編）『博物館ハンドブック』 （雄山閣 1993年（3版））				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
東洋美術史		通 期	4 単位	林 宏 作
<b>【講義概要・学習目標】</b> 美術の範疇はいたって広く、絵画・彫塑・建築・工芸など、凡そ空間ならびに視覚の美を表現する芸術すべてがその範疇に属するものである。 この講義では、先史時代を始め、殷・周・戦国・秦・漢・南北朝・隋・唐・宋・元・明・清など、時代を縦割りにして中国絵画史の連続性を究め、さらにそれぞれの時代を横割りにして広範な視野から中国絵画の全貌を眺めてみたい。	<b>【講義計画】</b> ① 中国絵画の流れ ② 中国絵画の特質 ③ 古代の絵画 ④ 唐宋の絵画 ⑤ 画院の画家 ⑥ 元四大家と文人画 ⑦ 南北画論			
<b>【成績評価の方法】</b> レポートの提出と試験の成績。	<b>【参考文献】</b> 傅 抱石「中国美術年表」（中華書局） 俞 劍華（著）「中国絵画史」（商務印書館） マイケル・サリバン（著）・新藤武弘（訳）「中国美術史」（新潮社） 王 耀庭（著）「中国絵画のみかた」（二玄社）			
<b>【教科書】</b>				



科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学社会学		後期集中	4 単位	後 藤 邦 夫
<b>【講義概要・学習目標】</b> かつて、科学は少数の研究者の個人的活動によって担われていたが、ある時期から多様な社会システムの活動の所産となった。このことが明確に認識されるようになった1930年代に、広義・狭義ともに科学社会学的研究がスタートした。狭義の科学社会学はさまざまな科学者集団を対象とする社会学的研究であり、いわゆる知識社会学の系譜に属する。しかし、この授業では科学を文化の一形態と見なし、その多様な社会的側面を扱う広義の科学社会学を講義する。また、講義者は「科学」と「技術」を一体のものとしてとらえる立場をとっている。したがって、講義の内容を「科学技術の社会的研究」としてもよい。このような研究の本格的展開は、第二次大戦後、とくに1970年代以降に起こった。核問題、環境問題等を通じて、科学技術の社会的意味が問われ、「科学的真理」や「技術進歩」に対しても根本的な検討が必要になったからである。それらの現代的トピックも出来るかぎり扱うことにしたい。	<b>【講義計画】</b> 前半では、1930年代に始まる科学社会学、すなわち科学技術の社会的研究の系譜と方法を扱う。すなわち、 (1) 19世紀から20世紀にかけての科学技術の現実を対象として、1930年代にマートン、パナール、マルクーゼ等が行った先駆的研究を概観する。 (2) 1970年代以降、クーンの「科学革命の構造」やマルクーゼの命題の再登場、文化多元主義や社会的構成主義の進出などのもので、「科学技術に対する社会的研究」に登場した主な論点と方法を講義する。 後半では、現代の科学技術の科学社会学的研究として、主に、第二次大戦中から現在に至るまで提起されたさまざまな話題を扱う。たとえば、 (3) 軍事と結合した「巨大科学技術」をめぐる諸問題、 (4) 先端科学技術、産業者会の転換、市民の参加等の諸問題、 (5) ポスト植民地主義時代における開発と技術移転の問題。			
<b>【成績評価の方法】</b> 1) 講義した内容についての試験を行う。 2) レポートを課し、その内容をも若干考慮する。	<b>【参考文献】</b> 講義の際に指示するが、トーマス・クーン「科学革命の構造」（みすず書房）は今世紀の古典として読んでおいてもらいたい。			
<b>【教科書】</b> 使用しない。必要に応じてプリント等を配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
産業技術論		通 期	4 単位	並 川 宏 彦
<b>【講義概要・学習目標】</b> 技術は人間の活動の所産である。技術の発展は、人間の生活の質を向上させるために必要不可欠なものである。技術の進歩は、社会の発展を促進し、人間の生活を豊かにする。技術の進歩は、社会の発展を促進し、人間の生活を豊かにする。技術の進歩は、社会の発展を促進し、人間の生活を豊かにする。	<b>【講義計画】</b> 第1章 緒言、第2章 技術の定義、第3章 技術の歴史、第4章 技術の発展、第5章 技術の社会、第6章 技術の文化、第7章 技術の倫理、第8章 技術の未来、第9章 技術の政策、第10章 技術の教育、第11章 技術の国際化、第12章 技術の環境、第13章 技術の安全、第14章 技術のセキュリティ、第15章 技術のプライバシー、第16章 技術の著作権、第17章 技術の特許、第18章 技術の競争優位性、第19章 技術のイノベーション、第20章 技術の起業家精神、第21章 技術のベンチャーキャピタル、第22章 技術のスタートアップ、第23章 技術のスケールアップ、第24章 技術のグローバル化、第25章 技術のデジタル化、第26章 技術の人工知能、第27章 技術のロボティクス、第28章 技術のバイオテクノロジー、第29章 技術のナノテクノロジー、第30章 技術の量子技術、第31章 技術の宇宙技術、第32章 技術の海洋技術、第33章 技術のエネルギー技術、第34章 技術の環境技術、第35章 技術の持続可能な開発目標、第36章 技術のSDGs、第37章 技術の未来展望、第38章 技術のまとめ。			
<b>【成績評価の方法】</b> レポートの提出を課す。期末に試験をする。試験の点数とレポートの評価で成績をつける。	<b>【参考文献】</b> 最初の授業の日に、各章ごとの参考文献を示す。			
<b>【教科書】</b>				





科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本文化史	01	通 期	4 単位	横 井 清
	02	通 期	4 単位	
<b>[講義概要・学習目標]</b> 日本の文化について歴史的に通観する。総じては、日本文化史上の重要な事象について、使用教科書の記述によりながら、初歩的・基礎的な「知識」を身に付けるようにいざないたい。その上で、本学が教育理念の根本におく「国際的な視野」に立って日本文化を見直して行くための手掛かりを得させたい。	<b>[講義計画]</b> 前期においては原始・古代～中世の文化史を追い、後期には近世～近代を対象として講義する予定。			
<b>[成績評価の方法]</b> 学年末の筆記試験による。	<b>[参考文献]</b> 必要に応じて随時授業の中で紹介する。			
<b>[教科書]</b> 家永三郎著『日本文化史（第二版）』（岩波新書）毎時間必携。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較芸術学		通 期	4 単位	林 宏 作
<b>[講義概要・学習目標]</b> すべての観察は比較ということの上に成り立っている。比較するということは、その座標として、比較が行なわれるための一定のカテゴリーを前提とする。この講義では、直立モチーフや運動モチーフなど基本的なモチーフにもとづいて、エジプト・西アジア・ギリシア・西欧・インド・東亜における彫塑の特徴を概説し、比較芸術学の方法を明らかにしたい。 なお時間の余裕があれば、日中両国における水墨画の比較にも言及したい。	<b>[講義計画]</b> 1. 比較芸術学の課題 2. 研究領域の範囲 3. 直立モチーフについて 4. 運動モチーフについて			
<b>[成績評価の方法]</b> <small>レポートの提出と試験の成績。</small>	<b>[参考文献]</b> 「近代芸術学の成立と課題」(吉岡健二郎著, 創文社) 「芸術の世界」(井島勉編, 創文社)			
<b>[教科書]</b>				



## 「基礎演習」クラス・研究テーマ一覧

クラス	担当者	研究テーマ	頁
01	荒木 英一	入門・日本経済	150
02	津田 和夫	わが国の金融制度と金融ビッグバン	150
03	上野 勝男	日本の農業・食料問題	151
04	梅本 哲世	都市生活の経済学	151
05	木村 二郎	日本経済入門	152
06	巖 善平	現代経済史	152
07・08	芝村 篤樹	現代日本の諸問題	153
09	鈴木 健	経済学的な物の見方・考え方	153
10	滝田 和夫	パソコンによる投資計画入門	154
11	竹歳 一紀	ライフサイクルの経済学	154
12	竹原 憲雄	日本経済入門	155
13	望月 和彦	「世の中は左様ならば御尤もさうでござるかしかと存ぜぬ」をぶっ飛ばす	155
14	野田 知彦	経済学の基礎	156
15	濱田 博男	日本の企業発展史	156
16	落谷 硯児	日本経済の現状について	157
17	藤岡 純一	環境問題と日本経済	157
18	前田 治郎	時事問題に強くなる	158
19	前田 徹生	現代社会の諸問題	158
20	三邊 信夫	経済学の黎明と発展	159
21	モグベル ザファル	アジア経済について考える	159
22	矢根 眞二	経済学入門	160
23	吉見 研次	現代日本の株式会社	160

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	01	通期	4単位	荒木英一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>前期は、テキストの輪読などを通じて、日本経済のおおまかな様子と経済学の基本的な概念や考え方を学ぶ。後期は、いろいろな経済記事を輪読しながら疑問点をあげて一緒に考えていくことにする。余裕があれば、各自が興味を持つ記事について報告してもらう。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期：テキストの輪読と講義</p> <p>後期：適当な経済記事の輪読（追ってコピーを配布） 各自の簡単な報告</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を重視する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>適宜に指定する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>『日本経済図説(第二版)』宮崎勇 著、岩波新書</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
基礎演習	02	通期	4単位	津田 和夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>テーマ：我が国の金融制度と金融ビッグバンの研究</p> <p>日本経済の現況を見つめながら、まず経済の基本や歴史を学ぶ。そして、その過程で日常生活において遭遇する様々な経済問題について疑問点や問題点を解きほぐし、理解を深める訓練をする。特に我が国の金融制度と金融ビッグバン、財政問題などは重点的に扱う。</p> <p>夏休みに自分の関心あるテーマを絞り、短い報告を書いてもらい、それによって報告をしてもらう。自分の意見の提示、活発な討論は高く評価する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>「前期」 教科書を読む。新聞記事などにより時事問題も研究する。</p> <p>「後期」 各自のテーマの発表、討論を行う。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況 討論参加状況 期末小論提出</p>	<p>[参考文献]</p> <p>「現代銀行論入門」(経済法令研究会)津田和夫著 最新版</p>			
<p>「教科書」</p> <p>日経文庫 ペーシツク「日本経済入門」(日本経済新聞社) 1998年8月、14刷、または最新刊</p>				